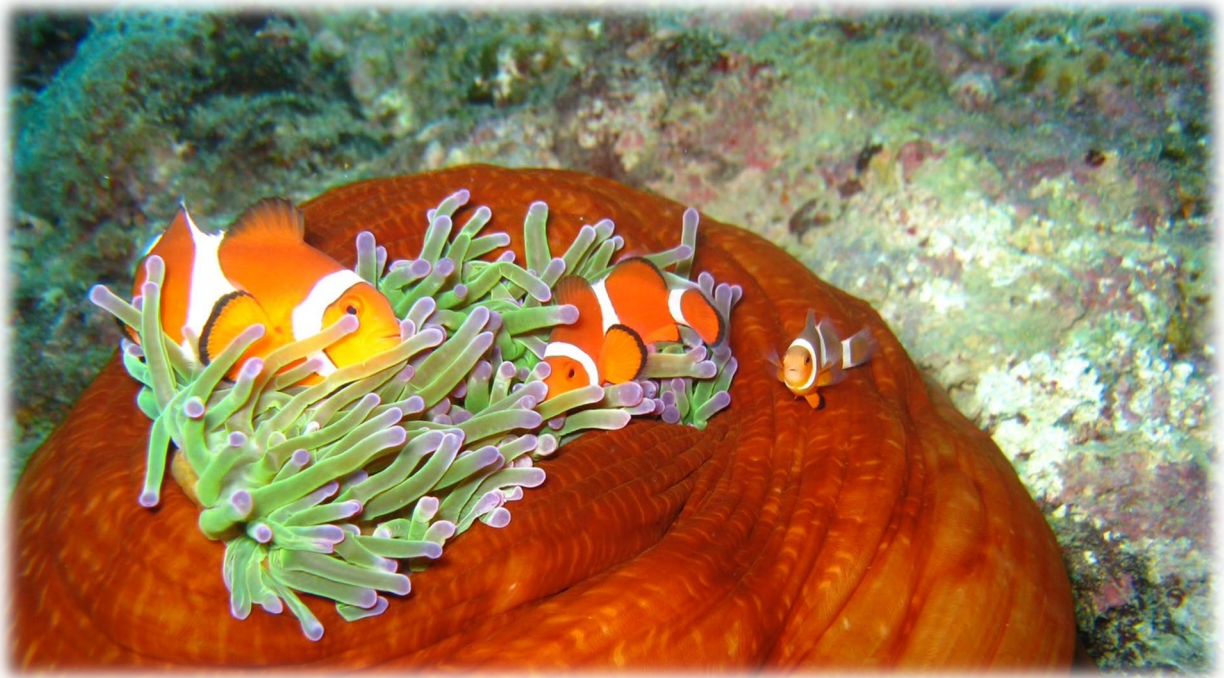


令和6年度

琉球大学病院

初期臨床研修プログラム



琉球大学病院

総合臨床研修・教育センター

Comprehensive Health Professions Education Center

琉球大学病院の理念及び基本方針

理 念

病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、地域・社会に貢献する優れた医療人を育成する。

基本方針

- 1) 生命の尊厳を重んじた人間性豊かな医療の実践
- 2) 地域の医療・保健・福祉に対する貢献
- 3) 先端医療技術の開発・応用・評価
- 4) 専門性及び国際性を備える優れた医療人の育成
- 5) 働きやすくやりがいのある職場環境の整備

令和6年度

琉球大学病院 

初期臨床研修プログラム

「新しい時代へ」



琉球大学病院長 大屋 祐輔

日本でも世界でも、時代は劇的に動いています。昨日まで当たり前だったことが、今日にはそうでなくなるようなことが頻繁に起こっています。急速な社会の変化の中で私たち医師の役割がどのように変わっていくのか、それを明確に予測し説明できる人はいないでしょう。たとえば、新型コロナウイルス感染症が生活を大きく変化させたことは、皆さんも実感していることと思います。また、AIが生活の中に浸透してきており、今後、医療の世界を大きく変えていくと思われまます。さらに、解決していない喫緊の課題として、我が国の急激な高齢化と経済の不調の中で、医師不足や医療費不足が生じ、地域医療が立ちゆかないこともおこりそうです。一方、国民の医療への期待はそれと反比例するかのようには内容は多彩化し、そのレベルも高まっています。加えて、医師の働き方改革の中で、従来のような長時間労働が、研修のためという理由、患者のためという理由のみでは許されなくなってきました。そのような状況で、医師の役割や働き方、医療制度の変更など、皆さんのキャリア形成にはきっと大きな変化が生じることになるでしょう。そうすると、若い先生方が、先輩の働く姿を見て、自分をそれになぞらえて将来像を描くことは、もはや無理かもしれません。私たちのRyuMIC（琉球大学）では、そのような未知なる未来に対して、プライマリ・ケアが行えるように研修することは当然として、長い将来を見据えて、自ら継続的に学ぶ能力を育て、また、ともに歩む仲間を作ることで、どのような社会状況となっても、それを乗り切ることができるように、大学の各診療科・医局とともに研修医や若い医師たちをサポートしています。

RyuMIC（琉球大学）では、地域からの要望、学生や研修医からの要望を取り入れつつ、研修システムの改良を行ってきました。一つ目に、ローテーションできる研修病院の選択をさらに広げました。今では、沖縄県内のほぼすべての研修病院で学ぶことができると言ってもよいでしょう。RyuMICでは、大学病院、市中病院、診療所、離島診療所など、多彩な施設で学ぶことを推奨しています。また、従来から研修医たちが自身の希望で研修ローテーションを選ぶことができますので、自由度が高いシステムといえます。二つ目は、研修環境の改善です。研修センターは、研修医それぞれに机や収納場所が確保されるのみならず、無線LANの環境、シャワー室、仮眠室なども整備されています。また、従来からのインターネット上のさまざまな雑誌や電子教科書も継続的に使うことができます。三つ目は、1年間のたすき掛けができるプログラムが、沖縄赤十字病院、沖縄県立中部病院、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、沖縄県立宮古病院、中頭病院、那覇市立病院、沖縄県立北部病院、ハートライフ病院、友愛医療センター、浦添総合病院に適應できるようになりました。地域病院の良さと大学病院の良さの両者を学ぶことができます。四つ目は、救急研修の充実です。琉球大学病院ではR6年1月の移転に合わせて高度救命救急センターをスタートする予定で、救急部の強化を行っております。救急研修の指導医はさらに充実しており、救急車の受け入れも急増しています。大学病院にいなながらも充実したプライマリ・ケア救急の研修ができるようになりました。五つ目は、沖縄県のすべての協同利用施設である「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」を身近に利用できることです。現在、複数のプログラムを行っており、1年目、2年目、指導医たちが楽しみながらシミュレーショントレーニングを行っています。以上のように、RyuMIC（琉球大学）は、沖縄の明日の医療に対応ができるように、充実した教育・研修環境、プログラムを整え、若い力が集まってきていただいたことに感謝しています。本年度、RyuMICプログラムに参加される先生方には、この制度のメリットを最大限に享受していただき、「よい臨床医」への第一歩を踏み出していただきたいと思います。

ようこそRyuMICへ！

琉球大学病院 臨床研修センター長
琉球大学病院 副 病 院 長
琉球大学病院 救 急 部 長
琉球大学大学院医学研究科 救急医学講座 教授
梅村 武寛



2023年度より臨床研修センター長を務めています梅村武寛と申します。2014年に福岡大学病院救命救急センターから沖縄県立南部医療センター・こども医療センターへ出向赴任し、救命救急センター長と兼任して臨床研修管理委員長を務めていました。2021年から当院の救急医学講座教授として赴任しました。

沖縄は、初期研修において非常に優れた制度を持つ地域で、全国各地から研修医が集まります。県医師会が中心となり、歓迎レセプションやOSCEの開催を行い、県医学会では研修医部門を設けるなど県を挙げて研修医教育に注力しています。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、世界的にも誰も経験したことがないような不自由な生活を余儀なくされました。医学教育・研修においても医学生・研修医が直接、臨床現場に赴き実習を行うことを憚られる状況が続いていました。この災難といえる状況を何とか乗り越え、少しずつ落ち着いた日常に戻りつつあるところです。

琉球大学病院は「病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、地域・社会に貢献する優れた医療人を育成する」という理念のもと医師・看護師を育成する機関として沖縄の医療を担っております。2つの初期臨床研修プログラムを備えており、当院で1年以上研修を行い、研修医の希望により複数の協力病院を選択することができる自由選択コースと、地域連携コースとして1年目は定められた市中病院で研修し、2年目を当院で研修するコースがあります。多くの研修協力病院・施設と連携しており、common diseaseから高度な医療までを経験してもらうことができます。将来の専攻科・専門医研修を見据えた自由度の高いプログラムとなっております。

最後に、琉球大学医学部・病院は2025年に現在の西原上原地区から西普天間地区への新病院移転を予定しております。病床数の増床やより高度な医療が行えるよう機能も大幅に拡充し、これまで以上に充実した研修生活を新しい病院にて行えます。ぜひ沖縄、琉球大学での初期研修生活を考えてみてください。

目 次

第一章 RyuMICプログラムの概要

琉球大学病院の理念及び基本方針	1
RyuMIC及びRyuMICプログラム	1
RyuMIC（琉大）プログラムの目的と特徴	1
RyuMIC（琉大）プログラムの管理運営組織と責任者	2
研修プログラムの名称と実施要項	2
研修プログラムの実際	3
指導医と指導体制	3
研修の評価と修了認定の要件	4
研修医の処遇	5
研修環境	5
研修修了後の進路等	5
問い合わせ先	5

第二章 臨床研修の目標、方略及び評価

I 到達目標	7
II 実務研修の方略	9
III 到達目標の達成度評価	11

第三章 RyuMIC（琉大）プログラムの概要

RyuMICプログラムA	13
RyuMICプログラムB	15
協力病院一覧	17

第四章 琉球大学病院 診療科の概要

第一内科	19
第二内科	20
第三内科	21
第一外科	22
第二外科	23
救急科	24
麻酔科	25
小児科	26
産科婦人科	27
精神科神経科	28
整形外科	29
脳神経外科	30
腎泌尿器外科	31
形成外科	32
皮膚科	33
耳鼻咽喉科	34
眼科	35
放射線科	36
病理診断科	37
リハビリテーション科	38

第五章 協力型臨床研修病院の概要

日本赤十字社 沖縄赤十字病院	39
地方独立行政法人 那覇市立病院	40
公益社団法人 北部地区医師会 北部地区医師会病院	41
沖縄県立北部病院	42
沖縄県立中部病院	43
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	44
沖縄県立宮古病院	45
社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	46
社会医療法人 敬愛会 中頭病院	47
社会医療法人 かりゆし会 ハートライフ病院	48
社会医療法人 友愛会 友愛医療センター	49
医療法人 おもと会 大浜第一病院	50
医療法人 沖縄徳洲会 中部徳洲会病院	51
医療法人 沖縄徳洲会 南部徳洲会病院	52
旭川医科大学病院	53
公益財団法人 がん研究会 有明病院	54
医療法人 晴明会 糸満晴明病院	55
独立行政法人 国立病院機構 沖縄病院	56
沖縄県立精和病院	57
医療法人 和の会 与那原中央病院	58

第六章 地域医療 保健・医療行政 研修／共通研修カリキュラム

地域医療 保健・医療行政	59
レクチャー・シミュレーションスキル・プライマリスキル	61
ケースカンファレンス・教育CPC	61

第1章

RyuMICプログラムの概要

■RyuMIC 及び RyuMICプログラム

RyuMICとは、沖縄県における唯一の医師養成機関であり地域医療における中核病院である琉球大学病院、他の基幹型臨床研修病院（以下「基幹病院」とする。）、協力型臨床研修病院（以下「協力病院」とする。）及び臨床研修協力施設（以下「協力施設」とする。）が各々の特徴を生かしつつ相互に連携を図ることによって、よりよい臨床研修を実現するために形成された臨床研修グループであり、RyuMICプログラムとは、琉球大学病院を含む各基幹病院の有する臨床研修プログラムの総称である。

RyuMICでは、共通の教育・研修理念に基づくRyuMICプログラムに沿って相互に協力しつつ、各基幹病院で採用された研修医の臨床研修が実施される。

RyuMICは、協力病院・協力施設間の相互関係を基軸とした集まりでありながらも、単に一つの研修プログラムを共有する臨床研修病院群ではない。基本的な研修カリキュラムや評価方法を共に開発し、様々な臨床研修の課題について共に検討・解決し、常に各々の病院における研修プログラムを改善することで発展・向上していくことを目指す相互協力システムである。

RyuMICのコンセプト

Ryukyuu Medical Interactive Collaboration (RyuMIC)

私たちが目指すもの、それは・・・

- ・ Ryukyuu → 地域を愛し、地域を見つめながら
- ・ Medical → 質の高い医療と豊かな教育環境で
- ・ Interactive → 大学病院・一般病院・診療所等の緊密な双方向の連携のもと、
- ・ Collaboration → 研修医・指導医・病院が相互に協力し、共に学び

幅広いステージで活躍できる「感性豊かな優れた医師」を育み、質の高い医療の実現に貢献する

■RyuMIC（琉大）プログラムの目的と特徴

【目的】

琉球大学病院初期臨床研修プログラム（以下「RyuMIC（琉大）プログラム」とする。）においては、社会に貢献する医師を養成すべく、琉球大学病院と地域における第一線の協力病院及び協力施設との連携を綿密に図り、相互に個々の病院の個性や特徴を生かしつつ、「医師として必要な基本的臨床能力（プライマリ・ケア）を身につけ、全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践していく」ことを目的とする。

教育に通じた熱意のある指導医のもと、日常診療で頻繁に遭遇する疾患についての基本的臨床能力（知識、技能、態度）の修得とともに、医師としての人格を涵養し、時代の要請や社会のニーズに応えられる医師の養成を目指す。また、科学的根拠に基づいた医療を学ぶことにより、専門臨床研修へのステップとする。

【特徴】

- ・ 琉球大学病院と地域の中核を担う基幹病院、協力病院及び協力施設との綿密な連携
- ・ すべての研修医が一次医療機関から三次医療機関での医療を体験（プライマリ・ケアから専門医療まで）
- ・ 多くの協力病院及び協力施設による多様な研修
- ・ 公平かつ一貫した質の高い臨床研修
- ・ 様々な基本的診療能力（プライマリ・ケア）の効率的で総合的な臨床研修
- ・ 二次医療機関での研修を加え、救急疾患やcommon diseasesへの対応を強化
- ・ On the job training (OJT) の実践研修
- ・ 充実した地域医療プログラム：離島診療所や家庭医学（family medicine）を実践する協力病院及び協力施設での研修が可能
- ・ 地域での研修中も専門家が集う大学病院へのコンサルトが可能
- ・ 希望の診療科へのローテーションが可能な「選択」期間の設置
- ・ 診療科にとらわれない共通研修カリキュラムの設置
- ・ 教育経験豊富な、充実した教育スタッフ
- ・ 教員、指導医、及び若手医師の屋根瓦方式による教育指導体制
- ・ チューター制度及びメンタルヘルスサポーター設置による研修医の支援と相談体制の充実
- ・ 設備の充実した研修医室

■RyuMIC（琉大）プログラムの管理運営組織と責任者

RyuMIC（琉大）プログラムによる臨床研修の最終責任者は、琉球大学病院長であり、研修修了の認定は病院長が行う。

RyuMIC（琉大）プログラムを統括・管理し、実効のある研修を実施するため、本病院に研修管理委員会を設置している。また、実際の研修計画の策定及び円滑な実施、カリキュラム管理、研修医のサポートを行うため、琉球大学病院長の下に総合臨床研修・教育センターを設置している。

【琉球大学病院研修管理委員会】（琉球大学病院研修管理委員会規程より）

琉球大学病院に、初期臨床研修を統括し、円滑に実施するため、研修管理委員会を置く。

構成員

- ・ 病院長（委員長）
- ・ 副病院長
- ・ 臨床研修センター長（副委員長）
- ・ 臨床研修センター 医科部門長
- ・ 研修プログラム責任者
- ・ 臨床研修センター 医科部門員
- ・ 研修協力病院における研修実施責任者
- ・ 研修協力施設における研修実施責任者
- ・ 事務部長
- ・ その他病院長が必要と認める者

所掌事項

- ・ 研修プログラムに係る基本方針の決定に関すること。
- ・ 研修プログラムの実施に係る総合的な調整に関すること。
- ・ 研修医の採用及び処遇等に係る総合的な調整に関すること。
 - ・ 他施設への出向／研修医の研修継続の可否／研修医の処遇／研修医の健康管理
- ・ 研修医の研修の評価に関すること。
 - ・ 研修目標の達成状況の評価／臨床研修における評価（修了時・中断時）
- ・ その他臨床研修及び研修医に関する重要事項
 - ・ 研修後及び中断後の進路に関する支援

■研修プログラムの名称と実施要項

RyuMICプログラムA

募集定員：1年次 20名、2年次 - 名

プログラム責任者 梅村 武寛（ウメムラ タケヒロ）
副プログラム責任者 原永 修作（ハラナガ シュウサク）
奥村 耕一郎（オクムラ コウイチロウ）
武村 克哉（タケムラ カツヤ）
大内 元（オオウチ ゲン）

RyuMICプログラムB

募集定員：1年次 4名、2年次 - 名

プログラム責任者 浜田 和弥（ハマダ カズヤ）
副プログラム責任者 兼次 拓也（カネシ タクヤ）
金城 忠嗣（キンジョウ タダツグ）

各プログラムに関する照会、資料請求先（住所及び担当部門等）

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地

琉球大学病院 総合臨床研修・教育センター

TEL：098-895-1384、098-895-1385 FAX：098-895-1099

E-mail：kensyu@acs.u-ryukyu.ac.jp URL：https://www.sotsugo.skr.u-ryukyu.ac.jp/

募集方法

公募

応募必要書類	選考試験願書、成績証明書、自己アピール文
選考方法	面接により行う
募集及び選考の時期	募集時期（6月1日頃から）、選考時期（8月上旬頃から）
マッチングの利用の有無	有

■研修プログラムの実際

オリエンテーション

自由選択コースでは、他大学出身者を含めて研修を円滑に実施できるよう、医師として仕事を始めるためのオリエンテーションとインフォームドコンセント、チーム医療、保健医療、院内感染対策、医療事故防止など、医療を行うために必要な基本事項を学ぶ。（1週間）

地域連携コースでは、各たすき掛け研修先でオリエンテーションを行う。

共通研修（全期間を通じて）：p.61参照

ローテーション研修では、研修が困難な内容を学ぶ目的で、研修医全員が共通研修カリキュラム（レクチャーやプライマリスキル等）に参加する。研修医を受け入れている各診療科は、研修医が共通研修に参加できるよう配慮する。

ローテーション研修

各プログラムのローテーション例を参考に、2年間で必修科、選択科を組み合わせる研修を行う。

■指導医と指導体制

研修医は研修期間中、琉球大学病院 総合臨床研修・教育センターに所属する。

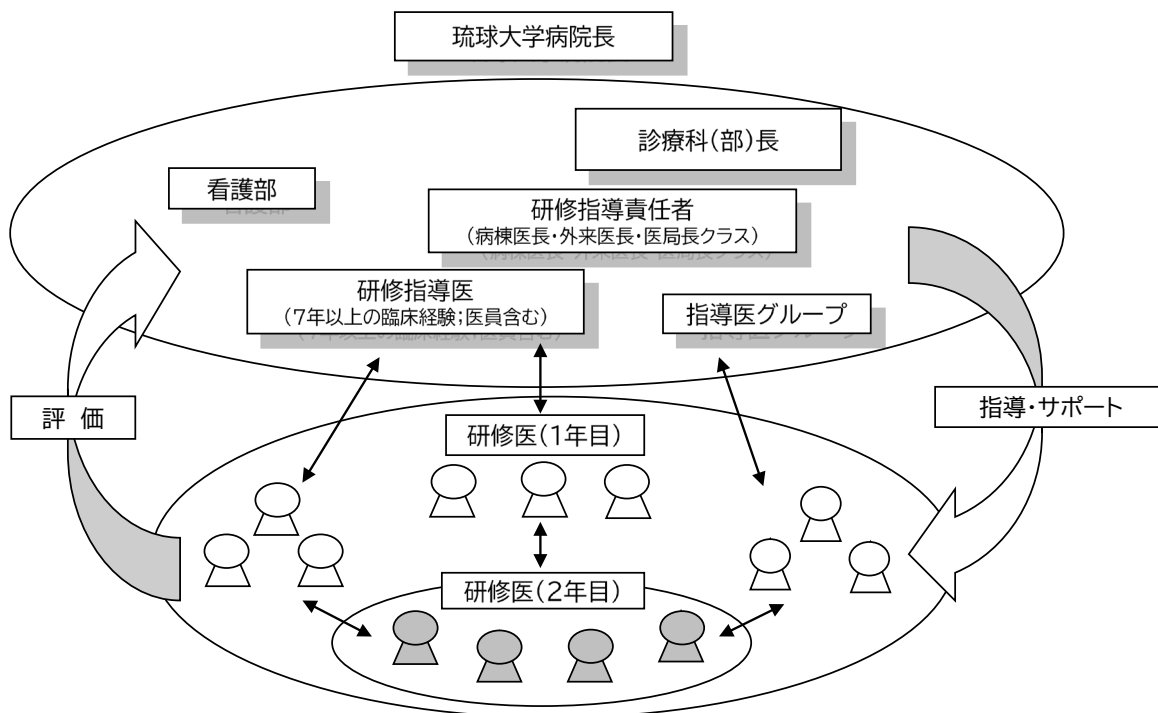
指導体制

- ・診療科（部）長：各診療科での研修における管理運営を行い、全体の責任を持つ。
- ・研修指導責任者：診療現場での研修を統括し、その全般の責任を負う。
- ・研修指導医：研修医が受け持つ患者の診療に直接参加し、研修医の診療場面での責任を担う。
- ・研修は、屋根瓦方式で行われる。

研修指導医

- ・7年以上の臨床経験を有し、プライマリ・ケアの指導が可能であり、医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針に準じて行われる指導医養成セミナー（又はそれに相当する講習会等）を受講した常勤の医師がこれにあたる。
- ・臨床研修事項に関しては診療科（部）長の了承のもとに研修指導医が決定する。診療上の最終責任は診療科（部）長が負う。
- ・研修は研修指導医、研修医が診療チームを構成して行う。

研修指導体制イメージ



■研修の評価と修了認定の要件

研修医による自己評価

研修報告	ローテーションごとにオンライン臨床研修評価システムPG-EPOCを用いて報告する。
経験した手技、 症状・病態・疾患	ローテーションごとに経験した手技、症状・病態・疾患についてオンライン臨床研修評価システムPG-EPOCを用いて報告する。また、レポートの提出が必要な経験目標もある。
研修目標の 達成度の評価	初期研修終了時にオンライン臨床研修評価システムPG-EPOC又は、研修記録を用いて報告する。

指導医・看護師・医療従事者からの評価

ローテーションごとにオンライン臨床研修評価システムPG-EPOCを用いて評価する。

共通研修の評価

十分な出席回数であることが必須である。

修了判定に必要な書類

- | | | | |
|--|---|---------------------|---|
| | } | 受講
確認
證書
等 | ・緩和ケア講習会 修了証書
・地域医療研修レポート
・CPCレポート
・剖検依頼・報告書
(主治医として受け持った症例がある場合) |
| ・血液型判定講習
・感染対策
・虐待への対応
・予防医療
・社会復帰支援
・アドバンス・ケア・プランニング (ACP) | | | |

形成的評価

少なくとも半年に一回は形成的評価を行う、評価時点で研修医が経験していない症候や疾病・病態に関する確認を実施する。

総合評価及び修了証の交付

- ・経験すべき症候、疾病・病態について、必須項目のすべてを経験したもののみ修了判定を行う。
- ・研修管理委員会が、2年の研修終了時にレポート、各種研修受講状況、PG-EPOCの自己・指導医・看護師・医療従事者からの評価を合わせて修了判定を行う。必要に応じて、面接による評価も行う。
- ・修了と認定された者に対して研修修了認定証を交付する。

指導体制・研修施設・研修プログラムの評価

各診療科の研修終了後に、指導体制・研修プログラムに関して、研修医からの評価を評価票により行い、指導医からの意見を併せて、翌年からの研修プログラムや指導体制の改善に用いる。

■研修医の処遇

研修期間は原則として2年間とし、研修場所及び研修業務については、あらかじめ決定した研修プログラムによるものとする。詳細は各診療科の研修方針に従う。研修医によるアルバイトは原則として禁止する。

雇用の形態	非常勤（琉球大学病院 医員（研修医））
給与・研修手当	基本給（日給）日額 9,045円 臨床研修手当 日額 5,000円
勤務時間・休日	勤務時間 8:30～17:15、休憩時間 原則12:00～13:00 時間外勤務有り 休 日 土日祝日、12月29日～1月3日
休暇等制度	6か月の継続勤務の後、10日の年次有給休暇を付与（条件有） その1年後に11日の年次有給休暇を付与（条件有） ※その他、病気休暇、忌引き、産前産後休暇、リフレッシュ休暇等の 各種有給休暇制度及び休業制度（育児休業、介護休業 等）あり
当直 救急準夜勤	当直なし 準夜勤 約2～4回/月 ※別途手当支給
宿舎	無（住宅手当：無）
研修医室	有（総合臨床研修・教育センターに仮眠室・シャワー室・個人の机有）
社会保険	完備（文部科学省共済組合、厚生年金保険、雇用保険、労災保険）
具体的に適用される就業規則名	国立大学法人琉球大学医学部・病院非常勤職員就業規則
健康管理、他健康診断	1～2回/年（特定業務従事者は2回）
医師賠償責任保険の扱い	国立大学附属病院損害賠償責任保険加入 個人加入必須
外部の研修活動	学会、研究会等への参加は可。ただし参加費用の支給無し

※2025年1月に宜野湾市へ移転予定。

■研修環境

本院では、以下のとおり臨床研修に必要な諸施設を備えている。

- ・総合臨床研修・教育センター事務室があり、臨床研修に係る諸事務手続きや連絡に関するサポートを受けることができる。
- ・総合臨床研修・教育センターに研修担当医を配置し、研修評価に基づいたアドバイスやローテーション選択に関するアドバイスを受けることができる。
- ・全科共通の研修医室が用意されている。電子カルテ、個人用机、ロッカー、メールボックス、仮眠室、シャワー室等が設置されている。
- ・臨床研修時の情報収集や勉強に関し、図書・雑誌等が附属図書館（医学部分館）や各科医局・病棟に豊富に揃えられているのみならず、インターネット環境が整備され、各種文献データベース検索、教育用コンテンツ、PMET（医療研修推進財団）の医療研修情報サービスの利用が可能である。
- ・各ローテート先にチューターを配置し、医療以外の個人的な生活上の相談等について応じるサポート体制を用意している。
- ・研修医のメンタルヘルス上の相談に応じるため、専門医（精神科）をメンタルヘルスサポーターとして設置している。

■研修修了後の進路等

- ・臨床研修修了後は、琉球大学医学部、琉球大学病院又は連携施設において、専門分野での専門研修（後期研修）が行え、臨床研修から連続したキャリアアップを目指すことができる。また、琉球大学大学院医学研究科へ進学することもできる。
- ・臨床研修後の進路について、チューターや各診療科から情報を得ることができるだけでなく、進路に関する説明会などが随時開催され、自分にあった進路を決定することができる。

■問い合わせ先

本院の研修プログラムによる臨床研修に関する問い合わせは、以下のとおりである。

照会先：琉球大学病院 総合臨床研修・教育センター

住 所：〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地

T E L：098-895-1384、098-895-1385

F A X：098-895-1099

E-mail：kensyu@acs.u-ryukyu.ac.jp

U R L：https://www.sotsugo.skr.u-ryukyu.ac.jp/

第2章

臨床研修の目標、方略及び評価

参考

医師法第一六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令
医師臨床研修ガイドライン ー2020年度版ー

<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000496242.pdf>

<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000341137.pdf>

臨床研修の基本理念 (医師法第一六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令)

臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学および医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

臨床研修の到達目標、方略及び評価

(厚生労働省HP参考 <https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000341137.pdf>)

I 到達目標

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与
社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。
2. 利他的な態度
患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。
3. 人間性の尊重
患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。
4. 自らを高める姿勢
自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性
診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。
 - ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
 - ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
 - ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
 - ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
 - ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不法行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題に対して、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床判断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療を含む。）を把握する。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域医療に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

II 実務研修の方略

研修期間

研修期間は原則として2年間以上とする。

協力型臨床研修病院又は臨床研修協力施設と共同して臨床研修を行う場合にあっては、原則として、1年以上は基幹型臨床研修病院で研修を行う。なお、地域医療等における研修期間を、12週を上限として、基幹型臨床研修病院で研修を行ったものとみなすことができる。

臨床研修を行う分野・診療科

- ① 内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、救急、地域医療を必修分野とする。また、一般外来での研修を含めること。
- ② 原則として、内科24週以上、救急12週以上、外科、小児科、産婦人科、精神科及び地域医療それぞれ4週以上の研修を行う。なお、外科、小児科、産婦人科、精神科及び地域医療については、8週以上の研修を行うことが望ましい。
- ③ 原則として、各分野では一定のまとまった期間に研修（ブロック研修）を行うことを基本とする。ただし、救急について、4週以上のまとまった期間に研修を行った上で、週1回の研修を通年で実施するなど特定の期間一定の頻度により行う研修（並行研修）を行うことも可能である。なお、特定の必修分野を研修中に、救急の並行研修を行う場合、その日数は当該特定の必修分野の研修期間には含めないこととする。
- ④ 内科については、入院患者の一般的・全身的な診療とケア、及び一般診療で頻繁に関わる症候や内科的疾患に対応するために、幅広い内科的疾患に対する診療を行う病棟研修を含むこと。
- ⑤ 外科については、一般診療において頻繁に関わる外科的疾患への対応、基本的な外科手技の習得、周術期の全身管理などに対応するために、幅広い外科的疾患に対する診療を行う病棟研修を含むこと。
- ⑥ 小児科については、小児の心理・社会的側面に配慮しつつ、新生児期から思春期までの各発達段階に応じた総合的な診療を行うために、幅広い小児科疾患に対する診療を行う病棟研修を含むこと。
- ⑦ 産婦人科については、妊娠・出産、産科疾患や婦人科疾患、思春期や更年期における医学的対応などを含む一般診療において、頻繁に遭遇する女性の健康問題への対応等を習得するために、幅広い産婦人科領域に対する診療を行う病棟研修を含むこと。
- ⑧ 精神科については、精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、精神科専門外来又は精神科リエゾンチームでの研修を含むこと。なお、急性期入院患者の診療を行うことが望ましい。
- ⑨ 救急については、頻度の高い症候と疾患、緊急性の高い病態に対する初期救急対応の研修を含むこと。また、麻酔科における研修期間を、4週を上限として、救急の研修期間とすることができる。麻酔科を研修する場合には、気管挿管を含む気道管理及び呼吸管理、急性期の輸液・輸血療法、並びに血行動態管理法についての研修を含むこと。
- ⑩ 一般外来での研修については、ブロック研修又は、並行研修により、4週以上の研修を行うこと。なお、受け入れ状況に配慮しつつ、8週以上の研修を行うことが望ましい。また、症候・病態については適切な臨床推論プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患の継続診療を行うために、特定の症候や疾病に偏ることなく、原則として初診患者の診療及び慢性疾患の継続診療を含む研修を行うことが必須事項である。例えば、総合診療、一般内科、一般外科、小児科、地域医療等における研修が想定され、特定の症候や疾病のみを診察する専門外来や、慢性疾患患者の継続診療を行わない救急外来、予防接種や健診・検診などの特定の診療のみを目的とした外来は含まれない。一般外来研修においては、他の必修分野等との同時研修を行うことも可能である。
- ⑪ 地域医療については、原則として、2年次に行うこと。また、へき地・離島の医療機関、許可病床数が200床未満の病院又は診療所を適宜選択して研修を行うこと。さらに、研修内容としては以下に留意すること。
 - 1) 一般外来での研修と在宅医療の研修を含めること。ただし、地域医療以外で在宅医療の研修を行う場合に限り、必ずしも在宅医療の研修を行う必要はない。
 - 2) 病棟研修を行う場合は慢性期・回復期病棟での研修を含めること。

- 3) 医療・介護・保健・福祉に係わる種々の施設や組織との連携を含む、地域包括ケアの実際について学ぶ機会を十分に含めること。
- ⑫ 選択研修として、保健・医療行政の研修を行う場合、研修施設としては、保健所、介護老人保健施設、社会福祉施設、赤十字社血液センター、健診・検診の実施施設、国際機関、行政機関、矯正機関、産業保健の事業場等が考えられる。
- ⑬ 全研修期間を通じて、感染対策（院内感染や性感染症等）、予防医療（予防接種等）、虐待への対応、社会復帰支援、緩和ケア、アドバンス・ケア・プランニング（ACP・人生会議）、臨床病理検討会（CPC）等、基本的な診療において必要な分野・領域等に関する研修を含むこと。また、診療領域・職種横断的なチーム（感染制御、緩和ケア、栄養サポート、認知症ケア、退院支援等）の活動に参加することや、児童・思春期精神科領域（発達障害等）、薬剤耐性、ゲノム医療等、社会的要請の強い分野・領域等に関する研修を含むことが望ましい。

経験すべき症候－29症候－

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候

経験すべき疾病・病態－26疾病・病態－

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常診療において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、考察等を含むこと。

Ⅲ 到達目標の達成度評価

研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が別添の研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価し、評価票は研修管理委員会で保管する。医師以外の医療職には、看護師を含むことが望ましい。

上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、研修医に対して形成的評価（フィードバック）を行う。

2年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。

第3章

RyuMIC(琉大)プログラムの概要

RyuMICプログラムA

RyuMICプログラムB

RyuMICプログラムA

目的と特徴

【目的】

「医師として必要な基本的臨床能力（プライマリ・ケア）を身につけ、全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践していく」ことを目的とする。

【特徴】

プログラムAは研修医の多様なニーズを考慮し、協力病院と連携した研修を可能とするプログラムで以下の2つのコースからなる。

自由選択コース：2年のうち琉球大学病院で1年以上、残りを協力病院から複数選択し研修を行う

地域連携コース：1年目を協力病院、2年目を琉球大学病院で研修を行う、たすき掛け研修

コース選択

自由選択コース

p.17「協力病院一覧」を基に、琉球大学病院と協力病院から研修先と診療科を選択し、ローテーション研修を行う。ただし、1年以上は琉球大学病院で研修しなければならない。

地域連携コース

下記協力病院から1施設選択し、1年目を協力病院、2年目を琉球大学病院でローテーション研修を行う。

[協力病院]

沖縄赤十字病院

沖縄県立宮古病院

那覇市立病院

中頭病院

沖縄県立北部病院

浦添総合病院

沖縄県立中部病院

ハートライフ病院

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

友愛医療センター

必修科・病院で定めた必修科・選択科研修

必修科(56週)		
内科	24週	12週以上は、必ず1年目で研修を行う。
救急部門	12週	8週以上は、必ず1年目で研修を行う。 麻酔科における研修期間を、4週を上限として、救急の研修期間とすることができる。
外科	4週	琉球大学病院では、第一外科・第二外科での研修が対象となる。
小児科	4週	
産婦人科	4週	
精神科	4週	
地域医療 (2年目に研修)	4週	一般外来研修、在宅医療研修を並行して実施する。 12週までを上限とし、本院での研修とみなすことができる。
病院で定めた必修科(4週)		
外科	4週	琉球大学病院では、第一外科・第二外科・整形外科・脳神経外科での研修が対象となる。
選択科(44週)		

一般外来研修は、地域医療研修の他、院内外の総合診療・内科・外科・小児科における一般外来でも研修可能である。

琉球大学病院における研修医の処遇

p. 5 ■研修医の処遇参照

ローテーションの原則

- 1) プログラムに沿ったローテーション研修及び共通研修を実施する。
- 2) 研修期間は、研修医は非入局で研修を行う。
- 3) 研修医は、臨床研修における到達目標を達成するために、研修開始前に総合臨床研修・教育センターにローテーション先の希望を提出する。総合臨床研修・教育センターが調整後に研修コースを確定する。
- 4) 2年間（104週）の研修期間のうち1年以上は本院で研修を行う。

ローテーション例

<原型>

1 年 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	内科 (必修科)						救急科 (必修科)			外科 (必)	小児科 (必)	産婦人科 (必)	精神科 (必)
2 年 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	外科 (☆)	地域 (必)	選択科研修										

<例>

自由選択コース

1 年 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	救急科			内科						精神科	小児科	産婦人科	選択科
琉球大学病院													
2 年 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	外科		選択科研修		地域 医療	選択科研修							
琉球大学病院				琉球大学病院									

1 年 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	内科			救急科			小児科	産婦人科	精神科	内科			外科
琉球大学病院			協力病院			琉球大学病院			協力病院				
2 年 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	選択科		地域 医療	外科	選択科研修								
琉球大学病院		琉球大学病院		協力病院				琉球大学病院					

地域連携コース

1 年 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	内科						救急科			外科	選択科研修		
たすき掛け研修先													
2 年 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	小児科	産婦人科	地域 医療	精神科	選択科研修								
琉球大学病院		琉球大学病院											

RyuMICプログラムB

目的と特徴

【目的】

「医師として必要な基本的臨床能力（プライマリ・ケア）を身につける中で、特に小児科や産婦人科の研修に重点をおき、全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践していく」ことを目的とする。

【特徴】

プログラムBは研修医の多様なニーズを考慮しつつ、小児科または産婦人科の研修期間を十分確保できるように、琉球大学病院と協力病院での研修が可能なプログラムで以下の2つのコースからなる
 自由選択コース：2年のうち琉球大学病院で1年以上、残りを協力病院から複数選択し研修を行う
 地域連携コース：1年目を協力病院、2年目を琉球大学病院で研修を行う、たすき掛け研修

コース選択

自由選択コース

p.17「協力病院一覧」を基に、琉球大学病院と協力病院から研修先と診療科を選択し、ローテーション研修を行う。ただし、1年以上は琉球大学病院で研修しなければならない。

地域連携コース

下記協力病院から1施設選択し、1年目を協力病院、2年目を琉球大学病院でローテーション研修を行う。

[協力病院]

<小児重点>

那覇市立病院

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

ハートライフ病院

友愛医療センター

<周産期重点>

沖縄赤十字病院

那覇市立病院

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

必修科・病院で定めた必修科・選択科研修

必修科(56週)		
内科	24週	12週以上は、必ず1年目で研修を行う。
救急部門	12週	8週以上は、必ず1年目で研修を行う。 麻酔科における研修期間を、4週を上限として、救急の研修期間とすることができる。
外科	4週	琉球大学病院では、第一外科・第二外科での研修が対象となる。
小児科	4週	
産婦人科	4週	
精神科	4週	
地域医療 (2年目に研修)	4週	一般外来研修、在宅医療研修を並行して実施する。 12週までを上限とし、本院での研修とみなすことができる。
病院で定めた必修科(8週)		
外科	4週	琉球大学病院では、第一外科・第二外科・整形外科・脳神経外科での研修が対象となる。
小児科 または 産婦人科	4週	
選択科(16週)		

一般外来研修は、地域医療研修の他、院内外の総合診療・内科・外科・小児科における一般外来でも研修可能である。

琉球大学病院における研修医の処遇

p. 5 ■研修医の処遇参照

ローテーションの原則

- 1) プログラムに沿ったローテーション研修及び共通研修を実施する。
- 2) 研修期間は、研修医は非入局で研修を行う。
- 3) 研修医は、臨床研修における到達目標を達成するために、研修開始前に総合臨床研修・教育センターにローテーション先の希望を提出する。総合臨床研修・教育センターが調整後にローテーション研修を確定する。
- 4) 2年間（104週）の研修期間のうち1年以上は本院で研修を行う。

ローテーション例

<原型>

1 年 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	内科 (必修科)						救急科 (必修科)			外科 (必)	小児科 (必)	産婦人科 (必)	精神科 (必)
2 年 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	外科 (☆)	小児or産婦 (☆)	地域 (必)	選択科研修									

<例>

自由選択コース

1 年 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	内科						産婦人科	外科		精神科	救急科		
琉球大学病院													
2 年 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	小児科		地域 医療	選択科研修									
琉球大学病院		琉球大学病院											

1 年 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	内科			外科		産婦人科	内科			小児科	救急科		
琉球大学病院													
2 年 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	選択科研修		精神科	産婦人科	選択科研修		地域 医療	選択科研修					
琉球大学病院		協力病院		琉球大学病院		琉球大学病院							

地域連携コース

1 年 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	内科			救急科			内科			外科	産婦人科	小児科	
たすき掛け研修先													
2 年 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	精神科	小児科	地域 医療	選択科研修									
琉球大学病院		琉球大学病院											

協力病院一覧

	内 科	外 科	救 急 科	麻 酔 科	小 児 科	産 婦 人 科	精 神 科	整 形 外 科	脳 神 経 外 科	腎 泌 尿 器 外 科	形 成 外 科	皮 膚 科	耳 鼻 咽 喉 科	眼 科	放 射 線 科	病 理 診 断 科	リ ハ ビ リ 科	備 考
琉球大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
沖縄赤十字病院	○	○	○	○	○	○		○	○	○								
那覇市立病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		
北部地区医師会病院	○	○	○	○				○								○		
沖縄県立北部病院	○	○	○		○	○										○		
沖縄県立中部病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※	※		○		○	※		※p.43参照
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					○		
沖縄県立宮古病院	○	○	○	○	○	○	○	○		○				○				
浦添総合病院	○	○	○	○				○	○		○		○		※	○		※p.46参照
中頭病院	○	○	○	○	※			○	※	※	※		※	※		○		※p.47参照
ハートライフ病院	○	○	○	○	○	○		○	○	○			○	○	○	○		※p.48参照
友愛医療センター	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○			○		
大浜第一病院	○	○		○				○	○					○	○			
中部徳洲会病院	○	○	○	○	○			○	○	○					○			
南部徳洲会病院	○	○	○			○		○		○					○			
旭川医科大学病院	○																	
有明病院	○	○	○	○				○		○	○				○			
沖縄病院	○	○														○		
糸満晴明病院							○											
沖縄県立精和病院							○											
与那原中央病院	○	○		※				※		※		※		※				※p.58参照

病院の都合により研修受入れが難しい場合があります。

地域医療研修先については、p.60 を参照してください。

第4章

琉球大学病院 診療科の概要

第 一 内 科	小 児 科	皮 膚 科
第 二 内 科	産 科 婦 人 科	耳 鼻 咽 喉 科
第 三 内 科	精 神 科 神 經 科	眼 科
第 一 外 科	整 形 外 科	放 射 線 科
第 二 外 科	脳 神 經 外 科	病 理 診 断 科
救 急 科	腎 泌 尿 器 外 科	リハビリテーション科
麻 醉 科	形 成 外 科	

第一内科

- 必修科
- 病院で定めた必修科
- 選択科

診療科(部)長	山本 和子
研修指導責任者	伊良波 淳
指導医数	11名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	8～15名(新患1～3名/週)
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	グループ診療を行っており、教員、指導医、若手医師、研修医、実習学生を交えての屋根瓦方式の指導体制を取る。指導責任者は病棟医長で、研修の到達度評価を行う。 研修医は主治医または副主治医となり、グループ内の複数の指導医がそれをサポートする。さらに、1年目研修医や実習学生の指導や相談に乗りながら、自身の知識や技術の確認を行う。
検査・治療の指導体制	1年目は必修科研修での検査や治療を経験し、指導をうける。 2年目は1年目に習得した検査・治療法の再確認を中心に、さらに1年目で習得できなかった項目を学ぶ。それらに加え、各専門領域における検査や治療に関する研修を指導医のもとで行う。
緊急時の対応について	勤務時間帯は指導医の監督の下に研修医が診療に当たる。夜間及び休日は当直医が対応し、必要に応じて研修医を呼び出し、当直医あるいは指導医とともに対応に当たる。
研修 回診・検査・手術等	<ul style="list-style-type: none"> ・入院受け持ち患者の診療(毎日。必要に応じて、夜間・休日も) ・カルテの記載：指導医とのディスカッションを受けて ・総回診(週1回)や毎日のグループ回診における受け持ち患者についての提示 ・検査及び手技：採血(静脈、動脈)、末梢ライン確保、心電図検査、各種検体のグラム染色・抗酸菌染色、血液培養などの基本的検査や手技は、自ら主体的に行う。侵襲を伴う検査手技あるいは専門的検査手技は、指導医の指導の下で自らあるいは助手として参加する。 ・屋根瓦方式の教育方針に則り、指導医とともに1年目研修医および実習学生の指導や相談にのる。「教えることは学ぶこと」を自らも実践する。 ・退院サマリー：患者の退院に際しては、報告書やサマリーの作成を必ず行う。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	週にそれぞれ1回。専門グループ別のもの(呼吸器合同カンファレンス、消化器合同カンファレンス)も適宜行われる。
学会及び研究会	興味ある症例の担当となった場合、指導医と相談の上、学術集会や研究会で報告することもできる。
その他	【研修期間】 希望する研修期間に呼吸器、消化器のいずれか、もしくは両グループを選択して研修を行う(感染症は両グループに含まれる)。必修科研修でのローテーションでは、原則として3か月間にそれぞれのグループで1.5か月ずつの研修を行う。

週のスケジュール(回診・オペ等)

	月	火	水	木	金
午前	8:30～朝カンファ 9:00～病棟対応、検査	8:30～朝カンファ 9:00～病棟対応 上部内視鏡検査	8:00～呼吸器カンファ 8:30～各グループ回診 9:00～病棟対応 気管支鏡検査	8:30～各グループ回診 9:00～病棟対応 上部内視鏡検査	8:30～朝カンファ 9:00～病棟対応 上部内視鏡検査 気管支鏡検査
午後	14:00～教授カルテ診 16:00～消化管カンファ 17:15～消化器合同カンファ (毎月第4週目) 18:00～呼吸器合同カンファ (毎月第2/4週)	12:30～勉強会 (隔月交互) 13:30～病棟対応 内視鏡特殊検査 ・治療 16:00～気管支鏡カンファ	13:30～病棟対応 下部内視鏡検査 特殊内視鏡検査	12:30～勉強会 (隔月交互) 13:30～病棟対応 下部内視鏡検査 特殊内視鏡検査 16:00～感染症カンファ	13:30～病棟対応 下部内視鏡検査 特殊内視鏡検査

第二内科

- 必修科
- 病院で定めた必修科
- 選択科

診療科(部)長	益崎 裕章
研修指導責任者	森島 聡子 ※内分泌代謝・糖尿病、血液、膠原病・リウマチの3つのグループがある。
指導医数	13名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	6~12名(うち新患 1~4名/週)
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	グループ診療を行っている。1年目研修医、2年目研修医、指導医、教員が、臨床実習学生を屋根瓦式の指導体制をとる。 具体的には、2年目研修医は主治医となり、グループ内の複数の指導医がサポートする。助教や医員は専任指導医となり、2年目研修医の直接の指導を行う。 研修指導責任者は、到達度チェックを行う。2年目研修医は、専門コンサルタントチームの一員として、1年目研修医への指示や指導も行う。さらに、臨床実習学生の指導や相談に乗ることで、自身の知識や技術の確認を行う。
検査・治療の指導体制	1年目の必修期間に行う。その際に十分習得できていない項目や専門的な検査・治療に関する研修を、グループ内の医員及び助教の指導で学ぶ。
緊急時の対応について	勤務時間帯は指導医の監督の下に研修医が診療に当たる。夜間及び休日は当直医が対応し、必要に応じて研修医を呼び出す。
研修 回診・検査・手術等	<ul style="list-style-type: none"> ・入院受け持ち患者の診療(毎日、夜間や休日も) ・カルテの記載:指導医にチェックを受けること。 ・指導医紹介、看護師紹介 ・病棟週間スケジュール紹介 ・病棟配置(病室、検査機器、物品、その他) ・1年目研修医指導について ・学生教育について ・グループ回診及び総回診(週1回)における受け持ち患者の提示。 ・検査及び手技:採血(静脈、動脈)、検尿検査、心電図検査をはじめ基本的検査や手技は自ら主体的に行う。専門的検査及び手技は、助手として参加し、ときには指導医の指導のもとに実施する。 ・退院サマリー:患者の退院に際しては、報告書やサマリーの作成を行う。 ・学生の指導
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	週にそれぞれ1回。専門グループ別のもの(整形外科合同カンファレンス、放射線科合同カンファレンス)も適宜行われる。
学会及び研究会	興味ある症例の担当となった場合、学術集会や研究会で報告する。
その他	【研修期間】 内分泌代謝・糖尿病、血液、膠原病・リウマチのいずれかまたは複数のグループを選択する。必修科研修でのローテーションでは、原則として3か月間または2か月間で研修を行う。

週のスケジュール(回診・オペ等)

	月	火	水	木	金
午前	9:00~ 医局会 新入院カンファ	外来 エコー(甲状腺)	外来 (血)カンファレンス/骨髄採取 (随時) (血)抄読会(隔週)		外来
午後	(血)カンファレンス(隔週) (血)夕回診 (内代)抄読会(隔週)	(血)夕回診 (内代)夕回診	(血)夕回診 (血)病理カンファ(随時) (内代)カンファレンス	(血)夕回診	(内代)カンファレンス (膠原)回診/カンファレンス (血)夕回診

第三内科

- 必修科
- 病院で定めた必修科
- 選択科

診療科（部）長	楠瀬 賢也
研修指導責任者	崎間 洋邦
指導医数	13名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	4～8名（うち新患 1～4名/週）
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	<p>第三内科は、循環器・腎臓・神経内科の3つのグループでグループ診療を行っており、屋根瓦式の指導体制をとっている。</p> <p>具体的には、研修医はいずれかのグループに所属し、主治医または副主治医となる。指導医資格をもつ助教や医員は専任指導医となり、1年目及び2年目研修医の直接の指導を行う。グループ内の複数の指導医がサポートする。医局長は指導責任者であり、到達度チェックを行う。</p> <p>さらに、研修医は、クラークシップとして病棟で働いている臨床実習学生の指導や相談に乗ることで、自身の知識や技術の確認を行う。選択研修として研修医2年目で第三内科を選択した場合は、各グループの専門コンサルタントチームの一員として、1年目研修医への指示や指導も行う。</p>
検査・治療の指導体制	研修医は、習得すべき基本的な検査・治療を、所属するグループ内の医員及び指導医の指導を受け習得する。
緊急時の対応について	研修医は、勤務時間帯は指導医の監督の下に診療に当たる。夜間及び休日は当直医が対応し、必要に応じて研修医を呼び出す。
研修 回診・検査・手術等	<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者：受け持ち患者の診療（毎日、必要に応じて夜間や休日でも行う）回診における受け持ち患者の提示。 ・診療録の記載：指導医とよくディスカッションして毎日記載する。 ・検査及び手技：採血（静脈、動脈）、検尿検査、心電図検査をはじめ基本的検査や手技は自ら主体的に行う。専門的検査及び手技は、助手として立ち合い、場合によっては指導医の指導のもとに実施する。 ・文書管理：患者の退院に際し、情報提供書の作成や病歴要約の作成を行う。 ・指導：2年目研修医は1年目研修医の指導を行う。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	カンファレンスはグループ別のものが適宜行われる。週に1回行われる教授総回診では、受け持ち症例のプレゼンテーションを行う。
学会及び研究会	興味ある症例を受け持ったら、学術集会で報告する。指導医がサポートする。
その他	<p>【研修期間】</p> <p>循環器、腎臓、神経のいずれかのグループを希望により選択して研修を行う。必修科研修でのローテーションでは、原則として3か月間または2か月間で研修を行い、希望があれば 研修期間中に複数のグループを選ぶことも可能である。</p>

週のスケジュール（回診・オペ等）

	月	火	水	木	金
午前					
午後				13:30～ 教授回診	

第一外科

- 必修科
- 病院で定めた必修科※
- 選択科
- ※基本、小児・周産期重点

診療科（部）長	高槻 光寿
研修指導責任者	野村 寛徳
指導医数	8名 (2023年11月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	10人前後の入院患者を受け持つ。
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	研修医は、教員・医員等の指導医と共に主治医グループを形成し、主治医の1人として患者を受け持つ。
検査・治療の指導体制	受け持ち患者の術前術後の検査、治療方針について所属グループの上級医師（指導医）と相談し、計画実行していく。
緊急時の対応について	受け持ち患者が急変等の際には、所属グループの指導医に速やかに連絡をとる。休日に所属グループにおいて緊急の検査・手術が行われる際には当科ドクターより連絡をいれるので指示に従う。
研修 回診・検査・手術等	<p>【病棟】 各研修医は10人前後の患者を主治医として受け持ち、受け持ち患者を毎日診察し、所属グループの指導医と相談の上、治療計画の立案、検査、患者および家族への説明、手術、術前後の管理を指導医とともにあるいは指導のもとに行う。</p> <p>【外来】 週1回の入院患者カンファレンスおよび、外来にて新患の予診を行う。その他、外傷の縫合や創傷処置、生検などを指導医のもとに行う。</p> <p>【回診】 毎朝夕、所属グループの回診に参加する。</p> <p>【検査】 受け持ち患者の検査以外に、各種の検査に参加する。</p> <p>【手術】 原則として、受け持ち患者の手術にはすべて助手として参加する。また、所属グループ以外の手術に参加することもできる。</p>
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	<p>水曜15:00 週1回の術前術後カンファレンスに参加し、担当患者のプレゼンテーションを行う。</p> <p>水曜16:00 週1回の抄読会に参加する。1回は抄読会を担当し、指導医に相談し適切な英文文献を探し、その内容を発表する。</p>
学会及び研究会	研修期間中の県内外の学会・研究会に参加し、発表を目標とする。
その他	指導医は研修医の肉体的・精神的疲労度や健康状態に留意し、必要に応じて手術参加の免除や休息を与える等の適切な対処を行う。

週のスケジュール（回診・オペ等）

	月	火	水	木	金
午前	8:30～ 外来・上部消化管・ 内視鏡検査	手術	9:00～ 外来・手術	9:00～ 外来 消化管造影検査	手術
午後	13:30～ 下部消化管内視鏡 検査	手術	13:30～ 教授回診 15:00～ 術前後カンファ、抄読会	病棟患者処置または、外科学に関する レクチャーおよび 縫合練習	手術

第二外科

- 必修科
- 病院で定めた必修科※
- 選択科
- ※基本、小児・周産期重点

診療科(部)長	古川 浩二郎
研修指導責任者	照屋 孝夫
指導医数	9名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	期間内に10人前後の入院患者を受け持つ。
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	研修医は、教員・医員等の指導医と共に主治医グループを形成し、主治医の1人として患者を受け持つ。
検査・治療の指導体制	受け持ち患者の術前術後の検査、治療方針について所属グループの上級医師(指導医)と相談し、計画実行していく。
緊急時の対応について	受け持ち患者が急変等の際には、所属グループの指導医に速やかに連絡をとる。休日に所属グループにおいて緊急の検査・手術が行われる際には当科ドクターより連絡をいれるので指示に従う。
研修 回診・検査・手術等	<p>【病棟】 各研修医は10人前後の患者を主治医として受け持ち、受け持ち患者を毎日診察し、所属グループの指導医と相談の上、治療計画の立案、検査、患者および家族への説明、手術、術前後の管理を指導医とともにあるいは指導のもとに行う。</p> <p>【外来】 週1回の入院患者カンファレンスおよび、外来にて新患の予診を行う。その他、外傷の縫合や創傷処置、生検などを指導医のもとに行う。</p> <p>【回診】 毎朝夕、所属グループの回診に参加する。</p> <p>【検査】 受け持ち患者の検査以外に、各種の検査に参加する。</p> <p>【手術】 原則として、受け持ち患者の手術にはすべて助手として参加する。また、所属グループ以外の手術に参加することも出来る。</p>
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	週1~2回の術前術後カンファレンスに参加し、担当患者のプレゼンテーションを行う。その他、所属グループの検討会に参加する。 週1回の抄読会に参加する。抄読会の担当になった場合は、指導医に相談し適切な英文文献を探し、その内容を簡潔に説明する。
学会及び研究会	研修期間中の県内外の学会・研究会に参加し、発表を目標とする。
その他	指導医は研修医の肉体的・精神的疲労度や健康状態に留意し、必要に応じて手術参加の免除や休息を与える等の適切な対処を行う。 【ケースレポート】 少なくとも1例以上の手術症例について、診断、検査、術後管理について症例レポートを提出する。退院患者毎に退院サマリーを作成し、指導医の添削を受け、加筆訂正する。

週のスケジュール(回診・オペ等)

	月	火	水	木	金
午前	7:20 回診 7:50 ミーティング 9:00 手術	7:20 回診 7:50 ミーティング 多職種カンファ 9:00 外来診療	7:20 回診 7:50 ミーティング 8:20 TAVIカンファ 9:00 手術	7:20 回診 7:50 ミーティング 術前カンファ 9:00 手術・心カテ 血管造影検査 外来診療	7:20 回診 7:50 ミーティング 8:40 多職種カンファ(ICU) 9:00 外来診療
午後	18:30 呼吸器カンファ (第2,4週)	13:30 心臓カテーテル 血管造影検査 16:30 抄読会(研修室)	17:00 心エコーカンファ (第1,3週)	16:30 TAVIカンファ 17:00 循環器カンファ	

救急科

- 必修科
- 病院で定めた必修科
- 選択科

診療科(部)長	梅村 武寛
研修指導責任者	梅村 武寛
指導医数	7名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	約100名(うち新患10名)(外来患者を含む) 研修期間3か月の間に、研修医1名当たり救急症例500件程度を担当する予定。
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	OJT (on the job training) を原則とし、指導医の指導、監督の下で、主治医・副主治医として救急外来、救急部入院診療に参加する。教員5名は全体を2チームとするチーム体制を取り、診療及び研修を相互にバックアップする。
検査・治療の指導体制	検査、治療の指導は、プライマリ・ケア及び救急に共通するものは全教員で分担する。特に専門性を有するものは、内科系治療を寺田、大内、外科系治療を梅村、寺田、集中治療領域を梅村、平良が担当する。
緊急時の対応について	緊急時に対応するため研修医、スタッフの緊急連絡先を確認し、緊急時には臨機応変できる研修体制を敷き、素早く対応する。特に麻酔時は、指導医が研修医に付き、緊急時に備える。
研修 回診・検査・手術等	【病棟】 各研修医は10人前後の患者を主治医として受け持ち、受け持ち患者を毎日診察し、所属グループの指導医と相談の上、治療計画の立案、検査、患者および家族への説明、手術、術前後の管理を指導医とともにあるいは指導のもとに行う。 【外来】 週1回の入院患者カンファレンスおよび、外来にて新患の予診を行う。その他、外傷の縫合や創傷処置、生検などを指導医のもとに行う。 【回診】 毎朝夕、所属グループの回診に参加する。 【検査】
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	月曜にカンファレンス、金曜に症例検討会、最新ジャーナルを用いた抄読会(毎週水曜日)
学会及び研究会	日本救急医学会総会、学術集会
その他	毎日の指導医あるいは研修指導責任者との対話を通し、mental health care や研修指導方法への意見を汲み上げる。 【当直】 救急外来の当直(3~6回/月)

週のスケジュール(回診・オペ等)

	月	火	水	木	金
午前	8:30~ カンファレンス 救急外来診察研修	8:30~ カンファレンス 救急外来診察研修	8:30~ カンファレンス 救急外来診察研修	8:30~ カンファレンス 救急外来診察研修	8:30~ カンファレンス 救急外来診察研修
午後	13:00~ 病棟巡回 救急外来診察研修 17:00~ カンファレンス	13:00~ 病棟巡回 救急外来診察研修 17:00~ カンファレンス	13:00~ 病棟巡回 救急外来診察研修 17:00~ カンファレンス	13:00~ 病棟巡回 救急外来診察研修 17:00~ カンファレンス	13:00~ 病棟巡回 救急外来診察研修 17:00~ カンファレンス

麻酔科

- 必修科(4週を上限に救急科研修とみなせる)
 病院で定めた必修科
 選択科

診療科(部)長	垣花 学		
研修指導責任者	仲嶺 洋介		
指導医数	16名	(2023年4月時点)	※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	1か月研修を行った場合、研修医1名当たり麻酔症例15~20件程度を担当する予定。		
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	麻酔科研修においては、各麻酔症例の周術期管理(術前診察・術中管理・術重症患者や救急患者の管理に必要な知識・技術も修得させる。後回診)について、指導医が直接その研修指導を行い、安全かつ確実な技術を修得させる。		
検査・治療の指導体制	周術期の病態生理を基に鑑別診断を挙げ、必要な検査(採血も含む)と治療を指導医と共にを行い、併せて全身管理に関する論理的考え方(思考過程)を学ばせる。		
緊急時の対応について	スタッフの緊急連絡先を明確にし、緊急時には臨機応変できる研修体制を敷き、素早く対応する。		
研修 回診・検査・手術等	【病棟】 指導医による麻酔科術前・術後診察と前投薬の実施指導。 【外来】 術前診察依頼のある他科患者の診察等を指導医監督下に行う。		
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	術前カンファレンス、症例検討会(毎週金曜日)に毎週参加する。 最新ジャーナルを用いた抄読会(毎週火曜日)		
学会及び研究会	3月と8月に沖縄県麻酔集中治療研究会(土曜日)の開催がある。		
その他	シミュレータを用い、気管挿管・腰椎穿刺、中心静脈穿刺など、基本的手技を習得する。多種病態とその治療を経験させる。 【ケースレポート】 担当した症例検討会の内容を要旨としてまとめる。		

週のスケジュール(回診・オペ等)

	月	火	水	木	金
午前	7:50~ カンファレンス 8:30~ 麻酔管理	7:20~ 抄読会 7:50~ カンファレンス 8:30~ 麻酔管理	7:50~ カンファレンス 8:30~ 麻酔管理	7:50~ カンファレンス 8:30~ 麻酔管理	7:20~ 症例検討会 7:50~ カンファレンス 8:30~ 麻酔管理
午後			17:30 勉強会		

小児科

- 必修科
- 病院で定めた必修科※
- 選択科
※小児・周産期重点（選択必修）

診療科（部）長	中西 浩一
研修指導責任者	浜田 和弥、兼次 拓也
指導医数	14 名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	9名（うち新患4名）
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	指導医、医員からなるチーム（2～4人）体制をとる。指導医、医員が主治医となり、研修医は副主治医としてチームに参加する。
検査・治療の指導体制	チームの指導医、医員が直接指導にあたる。
緊急時の対応について	随時対応する。
研修 回診・検査・手術等	【病棟】 研修期間中、指導医チームの一員として入院診療にあたる。 【外来】 週2回、医療面接、外来処置を行う。 【回診】 週1回の総回診に参加する。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	入退院カンファレンス、症例検討会に毎週参加する。 抄読会：週1回参加する。 研修終了時に研修内容をスライド形式で発表する。
学会及び研究会	参加可
その他	協力病院小児科やクリニック実習で”common disease”、乳児健診、予防接種、小児救急疾患について研修する。 退院患者の病歴総括、入院中患者についてはケースレポートを提出する。 週に1回程度、副直として指導医のもとで当直業務を行う。 土日業務に関しては、各Gで相違あり、必ずグループ上級医に相談すること。

週のスケジュール（回診・オペ等）

	月	火	水	木	金
午前	8:30～ 各G病棟回診	8:30～ 各G病棟回診 10:00～ web医局会	8:00～ web抄読会 8:30～ 各G病棟回診	8:30～ 各G病棟回診	8:30～ 各G病棟回診
午後	16:00～ 各G病棟回診	16:00～ 各G病棟回診	16:00～ 病棟回診	16:00～ 各G病棟回診	16:00～ 各G病棟回診

産科婦人科

- 必修科
- 病院で定めた必修科※
- 選択科
- ※小児・周産期重点（選択必修）

診療科（部）長	関根 正幸
研修指導責任者	銘苅 桂子、久高 亘、金城 忠嗣
指導医数	3名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	担当患者予定数 30名（うち新患 15名）
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	<p>下記3グループのいずれかに所属し、各主治医が直接の指導医となり臨床研修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○産科・周産期グループ（責任者：金城忠嗣） 主治医 金城忠嗣、知念行子、金城淑乃、屋良奈七、大木悠司、柱本真 ○生殖・内分泌グループ（責任者：銘苅桂子） 主治医 銘苅桂子、赤嶺こずえ、宮城真帆、大石杉子、仲村理恵、池村晶子 ○婦人科グループ（責任者：久高亘） 主治医 久高亘、仲本朋子、平良祐介、新垣精久、下地裕子、渡部俊陽、吉田晃大
検査・治療の指導体制	検査・治療の適応ならびに方法については各グループ・カンファレンスにて検討し指導する。 実施にあたっては各主治医が直接指導する。
緊急時の対応について	指導医が共同して対応する。指導医不在の場合にも、必ず他の指導医が共同して対応する。
研修回診・検査・手術等	グループ回診は1日2回行っている。毎週月、火、木は手術日である。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	毎週火曜日抄読会、毎週木曜日方針検討会、研修報告会、毎週金曜日症例検討会・病理カンファレンス、放射線カンファレンス。その他各グループで週に1回（周産期 水曜、生殖 火曜、婦人科腫瘍 水曜）カンファレンスを開催。隔週で三重大学、宮崎大学、熊本大学との4大学合同周産期カンファレンスの実施。
学会及び研究会	年2回の沖縄産科婦人科学会、年2回の沖縄県医師会学会産婦人科分科会、月に1-2回、学会主催や共催の研修会・研究会が開催される。
その他	<p>【ケースレポート・評価】</p> <p>1) 受け持ち症例について各カンファレンスにおいて症例提示を行う。退院時にケースレポートを作成し提出する。</p> <p>2) カンファレンスにおける症例提示は指導医が、ケースレポートは研修指導責任者ならびに研修総括責任者が、それぞれ評価する。</p>

週のスケジュール（回診・オペ等）

	月	火	水	木	金
午前	8:30～ 病棟 9:00～ 病棟/外来 (新患予診)	8:30～ 抄読会・手術	8:30～ 医局会 9:00～ 病棟/外来 (新患予診)	8:30～ 方針検討会・研修報告会 手術	8:30～ 放射線治療合同カンファレンス 9:00～ 病棟/外来 (新患予診)
午後	病棟/外来 手術 隔週で4大学合同周産期カンファレンス	病棟/外来 14:00～ 生殖内分泌グループカンファレンス 16:00～ 研究発表会	カンファレンス 15:00～ 婦人科G 16:00～ 周産期G	病棟/外来 16:00～	病棟 14:30～ 症例検討会・病理合同カンファレンス

精神科神経科

- 必修科
- 病院で定めた必修科
- 選択科

診療科（部）長	高江洲 義和
研修指導責任者	座間味 優
指導医数	7名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	期間内に4人前後の入院患者（うち新患2人前後）を受け持つ。
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	研修医は指導医と共に主治医グループを形成し、主治医の1人として患者を受け持つ。
検査・治療の指導体制	受け持ち患者の検査、治療方針について所属グループの指導医と相談し、計画実行していく。
緊急時の対応について	受け持ち患者が急変等の際には、所属グループの指導医に速やかに連絡をとる。研修医が休日の時、所属グループにおいて緊急の処置が行われる際は研修医を呼び出す。
研修 回診・検査・手術等	各研修医は3-4人前後の患者を担当医として受け持ち、受け持ち患者を毎日診察し、所属グループの指導医と相談の上、治療計画の立案、検査、患者および家族への説明を指導医とともにあるいは指導のもとに行う。 毎水曜日、所属グループのミーティングに参加する。また、週1回の総回診に参加し、受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。 受け持ち患者の検査以外に、各種の検査に参加する。指導医の指導のもとに入院患者の脳波検査を行う。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	症例検討会に参加し、担当患者のプレゼンテーションを行う場合がある。その他、所属グループの症例検討に参加する。
学会及び研究会	精神科専攻を検討している研修医に対し、学会及び研究会への案内をする。積極的な参加を期待する。
その他	指導医は研修医の肉体的・精神的疲労度や健康状態に留意し、必要に応じ適切な対処を行う。 行動制限：精神保健福祉法に基づく行動制限を指導医とともに行う。 【ケースレポート】 少なくとも2例以上の症例について、診断、検査、治療について症例レポートを提出する。退院患者毎に退院サマリーを作成し、指導医の添削を受ける。

週のスケジュール（回診・オペ等）

	月	火	水	木	金
午前	リエゾン回診の準備 事前診察 電気けいれん療法	病棟業務 電気けいれん療法	総回診 グループカンファレンス 電気けいれん療法	病棟業務 電気けいれん療法	リエゾン回診 準備・事前診察 電気けいれん療法
午後	病棟業務	リエゾン回診	症例検討	病棟業務	リエゾン回診

整形外科

- 必修科
- 病院で定めた必修科※
- 選択科
- ※基本、小児・周産期重点

診療科(部)長	西田 康太郎
研修指導責任者	當銘 保則、東 千夏、大久保 宏貴、金城 英雄
指導医数	7名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	7～8名(うち新患5名)
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	整形外科疾患の種類に応じて、①脊椎グループ、②腫瘍グループ、③手の外科グループ、④人工関節グループ、⑤リウマチ・スポーツグループ、⑥小児整形外科グループの6つの診療グループに分け、期間内は研修医の希望する単一または複数の診療グループに所属しチーム医療を行う。 各グループで指導医を決め、指導医を主治医、研修医を副主治医として、マンツーマンで患者の診察、検査、治療を直接指導する体制をとる。
検査・治療の指導体制	指導医が検査、治療の方法を直接指導する。研修医の理解が十分だと判断された後に、指導医の監視の下に研修医自らが検査、治療を直接実施する。 研修医に対して教科書あるいは文献的な情報を提供するとともに、文献検索の方法を指導する。
緊急時の対応について	緊急事態が生じた場合には直ちに研修総括責任者に連絡をとり、適切な対応をとる。
研修 回診・検査・手術等	【病棟】 各グループでチーム医療を行うが、主に指導医とともに行動し、入院患者を十分に把握するとともに、治療方針の話し合いに積極的に参加する。 【外来】 指導医とともに患者の診療にあたる。研修医は新患の問診を一人でを行い、必要な検査と治療計画の立案と実施は指導医の監視の下に行う。 【回診】 回診においては、短時間に要領良く症例を呈示する能力を身につける。研修医は受け持ち患者の手術の際には、必ず助手として参加する。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	研修医は自分の受け持ち患者の術前検討会において、症例の呈示を行う。 週1回研修医を対象にした抄読会を行う。また週1回の医局全体の抄読会に参加する。
学会及び研究会	研修期間に適切な学会があれば、発表する。
その他	研修医に過度の負担が生じないように、指導医及び各診療グループの長は個々の研修医の能力に応じて仕事量の調整を図る。 【ケースレポート】 研修医の知識習得及び評価のために、月に1回ケースレポートの作成を課す。

週のスケジュール(回診・オペ等)

	月	火	水	木	金
午前	腫瘍グループ手術 他のグループ外来	脊椎外科、 手外科、 小児整形外科、 リウマチ・スポーツ外科 手術	外来	脊椎外科、 手外科、 人工関節外科、 小児整形外科、 リウマチ・スポーツ外科 手術	外来
午後	外来	脊椎外科、 手外科、 リウマチ・スポーツ外科 手術	外来	脊椎外科、 手外科、 人工関節外科、 小児整形外科、 リウマチ・スポーツ外科 手術	外来

脳神経外科

- 必修科
- 病院で定めた必修科※
- 選択科
- ※基本、小児・周産期重点

診療科（部）長	石内 勝吾
研修指導責任者	菅原 健一 ・副責任者 外間 洋平
指導医数	4 名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	4～5名（うち新患2～3名）
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	基本的には1人の患者に対して指導医（脳外専門医）、主治医（脳外科専門医）、受持医（脳外科非専門医・研修医）の診療体制をとる。 受持患者の検査・治療は、主治医グループの主体的な診療計画で行われるが、毎週金曜日の症例検討カンファレンスでその是非について討議される。
検査・治療の指導体制	病棟の診療体制は病棟医長の病棟管理で入院・退院のアレンジは行われる。24時間脳外科オンコール体制が敷かれており、急変時・緊急時の対応については、主治医グループは勿論のこと、オンコール医も即座に対応する体制で行われている。
緊急時の対応について	主治医、指導医の指導のもとに行うのが原則。主治医不在の際は病棟オンコール医の指示・指導に従って行う。
研修 回診・検査・手術等	【病棟】 受持患者を中心に病棟業務を行う。脳外科病棟業務を習得する。 【回診】 回診は参加義務があり、そのつど患者病状を説明する。 【検査】 受持患者の検査は予めセットアップし、主治医指導のもとに研修する。 【手術】 受持患者の手術には、主治医や指導医の指導のもとに、積極的に参加し術後管理にも参加する。手術には積極的に参加し、手術戦略を学ぶ。また、術前シミュレーション動画の作成やAugmented Virtual Reality 拡張現実の研修ビデオで仮想術者となり手術野の現場感覚を鍛える。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	月・水・金の毎朝行われているので参加し、受持患者の検討を行う。他科合同カンファレンスにも参加する。 抄読会：毎週水曜日（18:00）に参加し、研修医も輪番制で英文文献を抄読する。
学会及び研究会	日本脳神経外科学会学術総会、日本脳神経外科学会九州支部会などの学会への参加が可能。希望によっては学会発表も可能である。
その他	指導医は研修医の肉体的・精神的疲労度や健康状態に留意し、必要に応じて手術参加の免除や休息を与える等の適切な対処を行う。 【ケースレポート】 受持患者の退院要約は受持医・研修医が提出し、教授が提出された書類を評価する。

週のスケジュール（回診・オペ等）

	月	火	水	木	金
午前	6:30～ リサーチカンファレンス 8:00～ クリニカルカンファレンス 8:30～ 放射線カンファレンス	手術	8:00～ クリニカルカンファレンス	手術	7:30～ クリニカルカンファレンス 8:30～ 合同回診
午後	19:00～ 脳・精神・神経 合同カンファレンス（月1回）	手術	18:00～ 抄読会	手術	

腎泌尿器外科

- 必修科
 病院で定めた必修科
 選択科

診療科（部）長	斎藤 誠一
研修指導責任者	芦刈 明日香
指導医数	6名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ 臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	30名（うち新患15名）
主治医・副主治医の体制 及びチーム体制	研修医は病棟チーフの管理下、上級医の指導を受ける。
検査・治療の指導体制	必ず上級医と一緒に医療行為を行う。
緊急時の対応について	必ず上級医と相談して行い、単独の判断は禁止する。
研修 回診・検査・手術等	【病棟】 入院患者を常に3人以上受け持ち、上級医と一緒に診断・治療を行う。 【外来】 外来診察に同席し、膀胱鏡検査・ウロダイナミクス検査を受け持つ。 【回診】 毎日早朝・夕方に行う。週1回は教授回診で症例提示を行う。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	症例検討会：毎週月・火・金曜日に行う。 合同カンファレンス（病理、放射線）1回ずつ水曜日に開催。（放射線科との合同カンファレンスは現在休止中。） 抄読会：毎週月曜日 MMカンファレンス：第3週 木曜日
学会及び研究会	ローテーションの月による。
その他	医局長が、生活面・精神面の調整を行う。（医局長が、臨床研修の指導を直接行うこともある。） 研修内容に対する要望には柔軟に対応する。

週のスケジュール（回診・オペ等）

	月	火	水	木	金
午前	7:30～抄読会・ カンファレンス 8:00～回診 9:00～外来	8:00～回診 9:00～外来	7:30～合同カンファレンス （放射線 第2・4、 病理 第3） 8:00～回診 9:00～手術（終日）	8:00～回診 9:00～手術（終日）	7:30～術前カンファレンス 8:00～回診 9:00～外来
午後	13:00～検査 17:00～回診	13:00～検査 17:00～回診	13:00～手術 17:00～回診	13:00～手術 17:00～回診	13:00～検査 17:00～回診

形成外科

- 必修科
- 病院で定めた必修科
- 選択科

診療科（部）長	清水 雄介
研修指導責任者	清水 雄介
指導医数	1名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	4～7名
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	研修医は、上級医と共にチームを形成し、チームの一員として診療にあたる。
検査・治療の指導体制	検査・治療の方針については、カンファレンスなどで適切な選択を検討する。各主治医の直接指導のもと実施する。
緊急時の対応について	基本的に、オンコール担当医の指導のもとに行う。緊急手術の際は、PHSまたは携帯電話でのオンコール対応となる。
研修 回診・検査・手術等	<p>【病棟】 当科に入院している患者のみならず、他科と並診している患者においても十分に把握する。日々の処置は積極的に行い、上級医の指導のもとに研修を行う。</p> <p>【外来】 週2回の外来に対応する。外来患者の対応について研修するとともに、超音波検査による血管評価や外来処置について上級医のもとに研修を行う。</p> <p>【回診】 毎朝・夕に行う。形成外科枠での手術は月曜日と水曜日に行われるが、他科との合同手術が不定期に行われる。特に、毎週金曜日は耳鼻咽喉科との再建手術を行うことが多い。</p>
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	<p>毎週水曜日、診療開始前に医局でカンファレンスを行う。術後症例の検討、術前症例の確認を行う。カンファレンス終了後勉強会を行う。</p> <p>毎週金曜日、診療科開始前に耳鼻咽喉科、口腔外科と合同の頭頸部腫瘍カンファレンスに参加する。</p>
学会及び研究会	参加義務はないが、タイミング次第で希望があれば参加可能。
その他	

週のスケジュール（回診・オペ等）

	月	火	水	木	金
午前	8:00～ 病棟回診 手術	8:00～ 病棟回診 外来	7:30～ カンファレンス・勉強会 カンファレンス 終了後～病棟回診 手術	8:00～ 病棟回診 外来	8:00～ 頭頸部カンファレンス 終了後～病棟回診 手術
午後	手術		手術	外来	手術

皮膚科

- 必修科
- 病院で定めた必修科
- 選択科

診療科（部）長	高橋 健造
研修指導責任者	宮城 拓也
指導医数	4名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	3～5名
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	Senior doctor, Junior doctor、後期研修医で患者を担当する。専門分野によらず、皮膚悪性腫瘍、自己免疫疾患を中心に様々な疾患を診ている。
検査・治療の指導体制	Senior doctor が中心になり、方針をたてるが、総回診、カンファレンスなど、科全体で治療の詳細を決定する。
緊急時の対応について	研修医自らの判断で緊急時の対応はしない。指導医とともに、患者への対応を行うようにする。
研修回診・検査・手術等	勤務時間は院内規程に準ずる。(休日は土曜、日曜、祝日) 医療上必要となる処置については時間外、休日に業務が発生する。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	教授回診、カルテカンファレンス、病理組織検討会がそれぞれ週1回行われ、沖縄勉強会が月1回程度の頻度で開催される。
学会及び研究会	年3回の日本皮膚科学会沖縄地方会が行われる。
その他	皮膚科関連の学会にも積極的に参加して症例報告を行う。希望があれば、基礎研究などにも参加して、医学全般への関わりをより深いものとする。 外来日は火曜日、木曜日、金曜日、手術日は水曜日、金曜日となっているため研修はそれにあわせプログラムされている

週のスケジュール（回診・オペ等）

	月	火	水	木	金
午前	入院、病棟	外来処置	入院手術 手術日	外来処置 病棟	外来処置
午後	13:00～ 病棟回診 外来 病棟 カンファレンス ～17:00頃まで	外来処置 病棟	オペカンファレンス 入院カンファレンス	外来処置 病棟	
	抄読会、教授回診、組織 検討会、カルテカンファ レンス	病棟および外来（病棟係 りでは包交、外来係りに あたらば外来処置、皮膚 生検、レーザー、サーモ グラフィーなど処置、検 査などを行う。）	病棟ミーティング、病棟 患者包交、病棟受け持ち 患者の治療、受け持ち患 者が手術の場合は手術に はいる。	病棟および外来（病棟係 りでは包交、外来係りに あたらば外来処置、皮膚 生検、レーザー、サーモ グラフィーなど処置、検 査などを行う。）	病棟患者包交、病棟受け 持ち患者の治療。

耳鼻咽喉科

- 必修科
 病院で定めた必修科
 選択科

診療科（部）長	鈴木 幹男
研修指導責任者	安慶名 信也 平川 仁
指導医数	10 名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	40～60 人（新患 20～30 人）
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	担当医（研修医）→主治医（経験 7 年未満の助手・医員）→指導医
検査・治療の指導体制	聴覚検査など非侵襲的検査：単独で行い結果の解釈は指導医らに確認。生検など侵襲的なものは指導医の監督下に行う。鼓膜切開、鼻出血など簡易な手術や処置は指導医の監督下に行い、鼓室形成術や副鼻腔手術、悪性腫瘍手術などは指導医の助手として参加する。
緊急時の対応について	医員、助手以上の教員が常時対応できる診療体制を整えている。
研修 回診・検査・手術等	【病棟】 8階西、1階西、6階東病棟にて行う。44床を有する。処置は特別に設けた処置室で行っている。 【外来】 1階耳鼻咽喉科外来で行う。耳鼻科特有のユニットや顕微鏡、内視鏡に慣れる。 【回診】 月の午前 8 時 30 分、木の午後 3 時から行う。 【検査】 随時 【手術】 月、火、水、金 （※耳鼻咽喉科研修中に数例の気管切開、扁桃摘出術の術者を経験する。）
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	カンファレンス：水曜日午前 7 時から行う。 血液内科、放射線科合同カンファレンスを行う。月曜日午前 7 時 30 分から（高エネルギーセンター） 抄読会：毎週水曜日最新の海外文献を発表する。（水曜日午後 6 時から）
学会及び研究会	
その他	【ケースレポート】 外来、病棟から随時症例を抽出し、症例検討会時に行う。

週のスケジュール（回診・オペ等）

	月	火	水	木	金
午前	手術、外来、処置	手術、処置	外来、手術、処置	外来、処置	手術、処置
午後	手術、外来、処置	手術、処置	手術、処置	処置	手術、処置

眼科

- 必修科
- 病院で定めた必修科
- 選択科

診療科（部）長	古泉 英貴
研修指導責任者	湧川 空子
指導医数	2名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	2名（週当たり）
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	緑内障、網膜硝子体、黄斑疾患、ぶどう膜炎、小児眼科、眼形成の専門外来があり、研修医は可能な限り全分野の外来診療（主に新患）に関わり、主治医がフィードバックを行うことで疾患への理解を深める。入院グループの主治医のもと、研修医が副主治医となる研修体制で指導を行い、手術準備や手術の第一助手を行う。
検査・治療の指導体制	屈折・視力などの外来一般視能検査は主に外来医長の監督のもと、視能訓練士が指導する。 検査の適応や結果の解釈については外来新患担当医が指導する。治療方針決定に関しては、各疾患別診療チームに委ねることを原則とする。
緊急時の対応について	研修医にのみ診療に当たることがないように、常に指導医が院内に待機する体制をとっている。 また、指導医が対応不能の場合には、原則として研修指導責任者が直接対応する。
研修 回診・検査・手術等	【病棟】 入院患者の術前術後管理、非観血的治療の計画策定及び治療効果判定をおこなう。患者及び家族に対する説明と合意形成に立ち会う。担当入院患者の診察の際に、細隙灯顕微鏡検査、接触型眼圧検査、隅角検査、眼底検査などの眼科基本検査の技術習得をはかる。点眼、眼帯、軟膏処置や結膜下注射などの基本処置を研修する。 【外来】 病歴聴取、検査、外来一般検査実施、特殊検査実施を担当する。検査結果をもとに、鑑別診断、治療計画を立案するプロセスを研修する。指導医の監督下に外来レーザー治療を研修する。 また、診療情報提供書、診断書などの記載方法を習得する。養育医療、育成医療申請や身体障害者認定、特定疾患医療費減免などの手続きについて研修する。 【回診・検査】 週1回（火）の病棟回診時に、担当患者の病態と治療計画を把握したうえでプレゼンテーションを行う。鑑別診断や病態把握、手術適応決定に不可欠な検査のリストアップとその実施を指導する。 【手術】 手術指導では、適応の決定に至る思考経路、ガウンテクニック・清潔野の指導などから、第二助手（機械出し）、第一助手と達成度に応じて段階的に経験させるよう配慮する。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	在院日数が短く、外来患者数が多いことを背景に全症例の全医局的な検討は行っていないが、難治例や、希少例に関して厳選して症例検討、治療方針の決定を多角的に行っている。また、専門診療チーム毎に症例検討をおこない、研修医の技能向上に努めている。 抄読会：眼科英文雑誌の論文を和訳することで、医学英語力と専門用語の理解を深めること、学術論文の理論展開を習得する。
学会及び研究会	稀な症例、また難症例に関して症例報告、また研究内容については、各専門学会、研究会で報告し、論文文化に努める。
その他	

週のスケジュール（回診・オペ等）

	月	火	水	木	金
午前	外来/手術	8:00～ 外来 回診	外来	8:00～ 外来 カンファレンス外	手術
午後	手術	外来 16:30～ カンファレンス 医局会	外来	外来	手術

放射線科

- 必修科
- 病院で定めた必修科
- 選択科

診療科(部)長	西江 昭弘
研修指導責任者	飯田 行
指導医数	4名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	診断：100名(読影レポート)、治療：20名
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	放射線部における各種検査・読影業務(診断、RI部門)、あるいは放射線科外来における治療業務(治療部門)について、研修を行う。従って、他診療科における主治医・副主治医の概念はない。各部門はそれぞれチーム医療として複数の医師がひとりの患者に対し医療行為を行う。
検査・治療の指導体制	指導医がマンツーマンで直接指導を行いながら、日常臨床に参加させる。
緊急時の対応について	原則として必ず担当指導医が対応するが、指導医不在の場合は他の指導医が対応するものとする。
研修 回診・検査・手術等	【病棟】 治療部門の研修において行う。副主治医として、放射線治療中の患者管理を研修する。 【外来】 治療部門の研修において行う。主に、新来患者の診療を行う。指導医のもと、治療適応の判断、治療計画立案を行う。 【回診】 治療研修のみ毎日行う。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	診断・治療共通：週一回の症例検討会に参加し、自分が担当した治療患者(IVR、放射線治療など)のプレゼンテーションを行う。 診断：科内の勉強会に参加し、画像診断に関する発表を行う。 県内放射線科、他科とのカンファレンスも希望があれば参加する。 治療：さらに他科とのカンファレンス(婦人科、耳鼻科、口腔外科、脳外科、血液内科等)に参加する。
学会及び研究会	
その他	

週のスケジュール(回診・オペ等)

	月	火	水	木	金
午前	7:30 頭頸部・血液腫瘍 カンファレンス 8:00 放射線治療部 カンファレンス 8:30 脳腫瘍カンファレンス	RALS 12:30 勉強会	7:30(月1) 泌尿器科カンファレンス 7:30(月3) カンサーボード 8:00 脳神経外科カンファレンス	8:00 治療G勉強会 8:15 IVRカンファレンス 12:30 勉強会	8:30 婦人科治療カンファ 15:00 婦人科腫瘍カンファレンス 12:30 勉強会
午後	18:00(月2) 呼吸器カンファレンス 19:00(月1) 肝胆膵カンファレンス		17:00 症例検討会 医局会 18:30 画像診断勉強会	IVR研修	16:00 診断G 振り返り

病理診断科

- 必修科
 病院で定めた必修科
 選択科

診療科（部）長	和田 直樹
研修指導責任者	和田 直樹
指導医数	1名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	上級医・指導医が診断を行う生検標本あるいは細胞診標本の一部を分担するとともに、切り出しに関与した手術症例を担当する。また、研修期間中に剖検があれば、上級医・指導医とともに剖検を行う（共通研修とは別に）。
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	「研修医－院生・医員・スタッフ－指導医」あるいは「研修医－院生・医員・スタッフ／細胞検査士－指導医」によるチーム体制をとる。
検査・治療の指導体制	週に数回、上級医とともに切り出し、診断を行ってまいります。
緊急時の対応について	研修指導責任者まで連絡のこと。
研修 回診・検査・手術等	1) 標本作成過程の理解と染色の実際 2) 生検材料および手術材料の取り扱いの実際（特に手術材料を中心に） 3) 切り出しを行い、組織検体の取り扱いや肉眼病理診断を研修するとともに、生検標本や手術標本あるいは細胞診標本の検鏡を行い、病理診断を実地に研修する。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	病理診断科カンファレンス：毎週木曜日午後2時から 呼吸器カンファレンス：月2回、月曜日 血液カンファレンス：月1回、水曜日 泌尿器カンファレンス：月1回、水曜日 婦人科カンファレンス：第3金曜日午後4時30分から 研修医CPC：年2～4回（月曜日） 剖検症例検討会：症例ごとに別途通知
学会及び研究会	場合により、学会発表を予定している。
その他	カンファレンス：病理診断科カンファレンスは原則、毎回参加

週のスケジュール（回診・オペ等）

	月	火	水	木	金
午前	8:30～12:00 切り出し 及び迅速対応	8:30～12:00 切り出し 及び迅速対応	8:30～12:00 切り出し 及び迅速対応	8:30～12:00 切り出し 及び迅速対応	8:30～12:00 切り出し 及び迅速対応
午後	13:00～17:15 診断 迅速対応	13:00～17:15 診断 迅速対応	13:00～17:15 診断 迅速対応	13:00～17:15 病理診断科カンファ レンス 診断 迅速対応	13:00～17:15 診断 迅速対応

リハビリテーション科

- 必修科
- 病院で定めた必修科
- 選択科

診療科（部）長	大屋 祐輔
研修指導責任者	神谷 武志、名嘉 太郎
指導医数	2名 (2023年4月時点) ※初期臨床研修の指導医資格を持つ臨床経験年数7年以上の常勤医師
担当患者予定数	主に外来診療を中心としますので30～50名/月の患者診療を行います。
主治医・副主治医の体制及びチーム体制	特にチームはなく、各指導医・医員で診療します。入院患者の紹介に対して外来診療を行います。指導医・専攻医と共に診療し方針決定する体制です。主治医・副主治医制ではありません。
検査・治療の指導体制	検査・治療手技は初回見学し、その後指導医監視下での実践を行い指導する。指導医が不在の場合にも医員からの説明およびセラピストとの協力体制を持っています。
緊急時の対応について	基本的に日中の緊急時の対応については主指導医で対応する。主指導医不在時にはリハビリテーション部のリスクマネージャーとも連携しつつ対応する。
研修 回診・検査・手術等	1週間で10名前後の患者様を診察します。診察（一般・神経診察）手技、リハビリテーション処方、リハビリテーション計画の立て方をアセスメントして実行する。処方内容がセラピストで実施できているかを確認しつつ方針を調整していく。検査や治療としては嚥下機能評価（嚥下内視鏡・嚥下造影検査）、神経伝導検査・針筋電図検査、心肺機能検査（CPX）、ボツリヌス療法やバクロフェン髄注療法、ロボットスーツHAL、義手義足診療などの経験を得る事ができる。
症例検討会・抄読会 カンファレンス・勉強会等	症例については毎回指導医と相談しながらリハビリテーション処方を実施します。月1回振り返りの症例検討会を実施する。 週に2回医師とセラピストとのカンファレンスを実施。適宜病棟カンファレンス等に参加をする。 勉強会は希望があれば指導医が適宜、運動器疾患、脳卒中、呼吸疾患、循環器、がん、嚥下障害、小児のリハビリテーション講義を行う。
学会及び研究会	日本リハビリテーション医学会（学術集会・地方会）、沖縄県リハビリテーション医学会・協会（本人の希望があれば学会発表も支援する。）
その他	院外の研修として福祉施設 更生相談所での実習や希望があれば療育センターでの診療見学も行う。

週のスケジュール（回診・オペ等）


	月	火	水	木	金
午前	外来診療 ロボットスーツHAL	外来診療	外来診療 CPX検査 ロボットスーツHAL	外来診療	外来診療 カンファレンス（呼吸器患者） ロボットスーツHAL
午後	外来診療 嚥下機能評価	外来診療 カンファレンス（がん患者）	摂食嚥下支援チーム 回診 神経伝導検査・針筋電図検査	嚥下機能評価	更生相談所見学・療育センター診療見学

第5章

協力型臨床研修病院の概要

日本赤十字社 沖縄赤十字病院
地方独立行政法人 那覇市立病院
公益社団法人 北部地区医師会 北部地区医師会病院
沖縄県立北部病院
沖縄県立中部病院
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
沖縄県立宮古病院
社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院
社会医療法人 敬愛会 中頭病院
社会医療法人 かりゆし会 ハートライフ病院
社会医療法人 友愛会 友愛医療センター
医療法人 おもと会 大浜第一病院
医療法人 沖縄徳洲会 中部徳洲会病院
医療法人 沖縄徳洲会 南部徳洲会病院
旭川医科大学病院
公益財団法人 がん研究会 有明病院
医療法人 晴明会 糸満晴明病院
独立行政法人 国立病院機構 沖縄病院
沖縄県立精和病院
医療法人 和の会 与那原中央病院

沖縄赤十字病院

住 所	〒902-8588 沖縄県那覇市与儀1丁目3番1号			
ホームページ	http://www.okinawa-med.jrc.or.jp/			
常 勤 医 師	68名（初期研修医除く）	指 導 医 数	18名	
研修実施責任者	豊見山 健	指 導 医	大嶺 靖 他	
年間外来診療日数	242日（2022年度）	一日平均患者数	413.3名（2022年度）	
病 床 数	302床			

基本的な勤務時間	平日	平日 8：30～17：10	土日	休診
休診日等	祝日	休診	慰霊の日	6/23 休診
	旧盆	曜日通り	年末年始	12/29～1/3休診

	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
	科	科	急	酔	児	婦	神	形	神	泌	成	膚	鼻	科	射	理
	科	科	科	科	科	人	科	外	経	尿	外	科	咽	科	線	断
研修 受入	○	○	○	○	○	○		○	○	○						

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。

診療グループ

内科：血液、呼吸器、循環器

病院の特徴 基本方針

<特徴>

急性期医療、二次救急医療、地域周産期母子医療センター、地域災害拠点病院、洋上救急及びヘリ添乗による救急医療、大規模災害被災者受入病院を柱に、疾病の予防から治療並びに災害救護を含めて大きく地域の医療の一端を担っている。

<基本方針>

1. 私たちは患者さんに益することのみに医療技術を提供します。
2. 私たちは信頼される医療が行えるように日々研鑽し、快適な療養環境を創ります。
3. 私たちは地域と連携を密にし、県民の健康増進に貢献できる医療活動を追求します。

身分異動時の 研修医の処遇

- ①身分：常勤嘱託医師
- ②給与：1年次/300,000円 2年次340,000円
- ③賞与：年2回（夏・冬）
- ④手当等：日当直手当、時間外手当、住居手当、通勤手当あり。
- ⑤休暇：1年次/10日 2年次/11日
- ⑥社会保険：健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険

身分異動時の 当直の有無・詳細

- 有
- 月に約5回程度の当直あり。
- <日直>土・日・祝：9時～17時
- <半直>平日（輪番日除く）：17時～20時
- <宿直>輪番日（木/毎週 金・土・日/月1回程度）：17時～翌9時

研修医が利用できる 駐車場の有無

- 有
- 利用料：7,700円/月

その他

- ・学会参加（演題発表含む）の場合、交通費・宿泊費の支給あり。
- ・日赤研修医研修会（1年次のみ）参加。
- ・日本赤十字社沖縄県支部開催の救急法・蘇生法・水上安全法などの講習会への参加が可能。
- ・福利厚生が充実。

那覇市立病院



住所	沖縄県那覇市古島2丁目31番地1		
ホームページ	https://www.nahacity-hospital.jp/		
常勤医師	139名	指導医数	59名
研修実施責任者	外間 浩	指導医	豊見山 直樹 他
年間外来診療日数	242日	一日平均患者数	626名
病床数	470床		

基本的な勤務時間	平日	8:30～17:15	土日	休み
休診日等	祝日	休診	慰霊の日	休診
	旧盆	通常診療	年末年始	12月28日～1月3日休診

	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
	科	科	急	酔	児	婦	神	形	神	泌	成	膚	鼻		射	理
			科	科	科	人	科	外	経	尿	外	科	咽	科	線	断
研修受入	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。

診療グループ

内科：総合内科、消化器、循環器、血液、腎、呼吸器
 外科：肝胆膵、消化管、乳腺・甲状腺・呼吸器・小児
 放射線：診断
 整形外科は、外傷がメインとなる。

病院の特徴
基本方針
 当院は現在470床、33診療科のほか、16種の専門特殊外来があり、令和4年度の外来患者数は151,566人、入院延患者数126,700人で平均在院日数は11.7日の急性期総合病院である。平成17年1月に厚生労働省から南部医療圏における地域がん診療連携拠点病院の指定を受ける。
 急病センターは、365日、24時間の終日診療を行っており、診療科目は、内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科だが、その他の科もオンコールで診療できる体制を取る。令和3年度の全救急患者数は23,420人、一日平均64.1人で、年間救急車搬送患者研修は4,500台を数え、幅広い疾患の診療が経験できるプライマリ・ケアの研修に最適の病院である。

身分異動時の研修医の処遇

当院職員（3ヶ月以上の勤務）として採用の場合
 身分：非常勤フルタイム医師
 勤務時間：原則 平日（月～金） 8:30～17:15
 給与：1年次 日額15,000円 2年次 日額15,000円 ※時間外手当有り

身分異動時の当直の有無・詳細

有 (準夜・当直・小児科の場合はたそがれ(17時～19時半)勤務)

研修医が利用できる駐車場の有無

有
 乗用車 有料：6,000円/月
 自動二輪（50cc） 有料：1,500円/月
 自動二輪（上記以外） 有料：2,000円/月

その他

北部地区医師会病院

住所	沖縄県名護市宇茂佐1712-3															
ホームページ	https://hokubuishikai.com/															
常勤医師	42名	指導医数	14名													
研修実施責任者	諸喜田 林			指導医	川又 久永 他											
年間外来診療日数	274日			一日平均患者数	260.3											
病床数	236床															
基本的な勤務時間	平日	8:30-17:30				土日	休									
休診日等	祝日	土・日・祝日				慰霊の日	曜日通り									
	旧盆	曜日通り				年末年始	12月30日～1月3日									
	内	外	救急	麻酔	小児	産婦人科	精神科	整形外科	脳神経外科	腎泌尿器外科	形成外科	皮膚科	耳鼻咽喉科	眼科	放射線科	病理診断科
研修受入	○	○	○	○				○								○
※病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。																
診療グループ 内科：消化器内科、呼吸器内科、内分泌代謝、循環器内科 外科：消化器外科、リウマチ科、乳腺外科、心臓血管外科																
病院の特徴 基本方針	北部地区医師会病院は、北部地域二次医療圏(人口約11万人)の中心名護市にある、24時間救急医療対応の急性期型病院である。診療科として内科(消化器・呼吸器・内分泌代謝)、外科、整形外科、健診科等があり、またH22.4月に心臓に特化した心臓血管センター(心臓血管外科、循環器内科)を開設し、地域における中核病院の一つとしての役割を果たしています。 当院は、北部全域における医療・保健・福祉の充実にも努力している。山間僻地の無医地区解消のため、東村立診療所および名護市立久志診療所の運営を、いわゆる公設民営型で行なうとともに、他の村立診療所等との間に緊密な病診運携を図っている。さらに病院に併置されている健康管理センター等の活動を、各診療科の医師が支援しています。 本院での臨床研修を希望される場合、地域医療と病院との密接な関係を理解し成果を上げるためには、地域医療1ヶ月と選択科2ヶ月を組み合わせた、少なくとも3ヶ月間の選択が望ましいと考えられる。6ヶ月間、9ヶ月間の研修受け入れも可能である。また希望により他の診療科や複数の選択科での研修も可能であります。															
身分異動時の 研修医の処遇	【勤務時間】 《平日：月曜日～金曜日》8:30～17:30、《土曜日》8:30～12:30 【給与】 初期研修1年目 基本給 300,000円(月給) 初期研修2年目 基本給 345,000円(月給)															
身分異動時の 当直の有無・詳細	有	平日 17:30～翌8:30 土曜日 12:30～18:00/18:00～翌9:00 日曜・祝日 9:00～18:00/18:00～翌8:30														
研修医が利用できる 駐車場の有無	有	職員駐車場 無料														
その他																

沖縄県立北部病院



住所	沖縄県名護市大中2-12-3		
ホームページ	http://www.hosp.pref.okinawa.jp/hokubu/		
常勤医師	55名	指導医数	12名
研修実施責任者	永田 恵蔵	指導医	久貝 忠男 他
年間外来診療日数	242日	一日平均患者数	267名
病床数	327床		

基本的な勤務時間	平日	8:30～17:00	土日	休
休診日等	祝日	休診	慰霊の日	休診
	旧盆	休診	年末年始	12/29～1/3休診

	内	外	救急科	麻酔科	小児科	産婦人科	精神科	整形外科	脳神経外科	腎泌尿器外科	形成外科	皮膚科	耳鼻咽喉科	眼科	放射線科	病理診断科
研修受入	○	○	○		○	○										○

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。

診療グループ
内科：総合内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科

病院の特徴
基本方針

- ・「充実の座学」と「協力連携病院のイズム」が融合した屋根瓦方式の研修。
- ・研修医が経験できる症例数は年間1人あたり約1,000例。
『ジェネラル力』を鍛えることができます。
- ・指導医との仲も良くディスカッションも頻繁に行われています。
- ・附属診療所で地域医療研修を行うことができます。
- ・内科、外科、救急科、小児科、産婦人科等、豊富な件数と幅広い症例（かぜから心筋梗塞、脳出血まで。2.5次救急）を経験し、common disease に紛れてくる危険な疾患を見逃さない力を修得します。

身分異動時の研修医の処遇

【給与】
・1年次：290,800円～

【手当】
・期末手当 ・通勤手当（片道2km以上） ・退職手当

身分異動時の当直の有無・詳細

有

月平均4～6回

研修医が利用できる宿舎・駐車場の有無

有

宿舎：研修医宿舎あり（研修医は家賃光熱水費無料）
職員専用駐車場あり

その他

・詳細は当院ホームページを参照していただくか、担当者までお問い合わせください

沖縄県立中部病院



住 所	沖縄県うるま市宮里281番地		
ホームページ	https://chubuweb.hosp.pref.okinawa.jp/unihawaii/		
常 勤 医 師	207名	指 導 医 数	98名
研修実施責任者	尾原 晴雄	指 導 医	豊里 尚己 他
年間外来診療日数	246日	一日平均患者数	783名
病 床 数	559床		

基本的な勤務時間	平日	8:30~17:00	土日	休診
	祝日	休診	慰霊の日	休診
	旧盆	曜日通り	年末年始	12/29~1/3休診

	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
	科	科	急	酔	児	婦	神	形	神	尿	成	膚	鼻		射	理
			科	科	科	人	科	外	経	器	外	科	咽	科	線	断
研修 受入	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△		○		○	▲

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。
△：たすき掛けのみ ▲：体制が整い次第

診療グループ

内科：腫瘍・血液内科、循環器内科、感染症内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、神経内科
外科：外科、心臓血管外科

病院の特徴 基本方針

- (特徴)
・断らない北米型ER ・元祖屋根瓦方式 ・豊富な症例数 ・ハワイ大学との連携
- (基本方針)
1 協調性 (対医療従事者) : チーム医療
2 共感 (患者とのコミュニケーション) : 患者-医師関係
3 責任感 : 患者-医師関係、チーム医療
4 知識・手技 (智慧) : 問題対応能力、症例提示
5 計画立案・優先順位化 : 問題対応能力、安全管理
6 積極性 : 患者-医師関係、チーム医療

身分異動時の 研修医の処遇

給与額：月額 1年次 約335,000円、2年次 約344,000円
手 当：時間外勤務手当 (15.5H当直勤務した場合)
1回手当額：1年次約42,000円 2年次約43,000円
期末手当、休日勤務手当、退職手当
勤務時間：原則 週38.75時間
年次有給休暇：年間 1年次10日間、2年次11日間
社会保険等：1年次 健康保険・厚生年金、労働者災害補償保険、雇用保険 (6か月)
2年次 地方公務員共済組合、地方公務員災害補償基金

身分異動時の 当直の有無・詳細

有 月8回まで


研修医が利用できる 駐車場の有無

無

その他

寮については要確認。

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

住 所	〒901-1193 沖縄県島尻郡南風原町字新川118-1			
ホームページ	https://nanbuweb.hosp.pref.okinawa.jp/			
常 勤 医 師	155名	指 導 医 数	55名	
研修実施責任者	土屋 洋之	指 導 医	土屋 洋之	他
年間外来診療日数	242日（救急外来：365日）	一日平均患者数	628名	
病 床 数	444床			

基本的な勤務時間	平日	8：30～17：00	土日	シフトにより異なる
休診日等	祝日	休診	慰霊の日	休診
	旧盆	曜日通り	年末年始	12/29～1/3

	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
	科	科	急	酔	児	婦	神	形	神	泌	成	膚	鼻	科	射	理
	科	科	科	科	科	人	科	外	経	尿	外	科	咽	科	線	断
研修受入	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					○

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。

診療グループ

内科：総合内科・神経内科・循環器内科・腎リウマチ科・消化器内科・血液内科・呼吸器内科
 外科：一般外科・心臓血管外科・小児外科
 小児科：小児総合診療科

病院の特徴 基本方針

【特徴】

- 1) 南部医療圏における救命救急医療
- 2) 小児の専門診療（こども病院機能）
- 3) 高度多機能病院
- 4) 精神身体合併症医療
- 5) 離島、へき地医療支援

【基本方針】

- 1) 県民と協働し、共感・共存できる公的医療を実践します。
- 2) 県民生活を守る救急医療を365日24時間提供します。
- 3) 病んでいる子ども達の可能性を最大限に生かせるよう努力します。
- 4) 教育・研修病院として良き医療人を育成します。
- 5) 病状や治療方針について、平易な言葉で十分に説明し、納得がいく同意を得るよう努力します。
- 6) 病院ボランティアの受入れを進んで行います。
- 7) 県民が誇れる、県民の病院として地域交流から国際交流まで進めていきます。
- 8) 沖縄県の基幹病院として職場環境に配慮し、健全経営に努めます。

身分異動時の 研修医の処遇

- 1) 雇用の形態： 会計年度任用職員
- 2) 給与：1年次 294,000円 2年次 302,000円
※上記金額は、研修医業務手当を含む。
- 3) 手当：時間外勤務手当、通勤手当（片道2km以上）、期末手当、休日勤務手当、退職手当
- 4) 勤務時間：基本的な勤務時間8:30～17:00
- 5) 休暇：年次有給休暇 年間10日（1年目） 年間11日（2年目）
- 6) 宿舎及び病院内の個室：宿舎：有 病院内の個室：無（病院内の研修医室：有）
- 7) 社会保険
1年目：地方公務員共済組合（短期組合員）・厚生年金・労働者災害補償保険・雇用保険
2年目：地方公務員共済組合（一般組合員）・地方公務員災害補償基金

身分異動時の 当直の有無・詳細

有 6～7回／月

研修医が利用できる 駐車場の有無


有 条件あり

その他

沖縄県立宮古病院

住 所	沖縄県宮古島市平良字下里427番地 1															
ホームページ	http://www.hosp.pref.okinawa.jp/miyako/index.html															
常 勤 医 師	46名					指 導 医 数		16名								
研修実施責任者	本永 英治					指 導 医		本永 英治 他								
年間外来診療日数	240日					一日平均患者数		466名								
病 床 数	272床															
基本的な勤務時間	平日	8:30～17:00					土日	休診								
休診日等	祝日	休診					慰霊の日	休診								
	旧盆	通常通り診療					年末年始	12月29日～1月3日は休診								
	内 科	外 科	救 急 科	麻 酔 科	小 児 科	産 婦 人 科	精 神 科	整 形 外 科	脳 神 経 外 科	腎 泌 尿 器 外 科	形 成 外 科	皮 膚 科	耳 鼻 咽 喉 科	眼 科	放 射 線 科	病 理 診 断 科
研修受入	○	○	○	○	○	○	○	○		○				○		
≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。																
診療グループ 内科：内科：呼吸器・腎・膠原病、総合診療、循環器、消化器 外科：一般外科																
病院の特徴 基本方針	当院は、宮古郡島における地域支援病院という機能、役割を背負っており、276床（一般225床（ICU4床、HCU4床、NICU3床、GCU3床を含む）、精神科45床、結核3床、感染症3床）、24科の診療科が設置されている。 当院の大きな役割の1つとして救急医療があり、1次・2次あるいは3次の救急疾患に対応できるように24時間対応している。救急室には科を問わず子供から高齢者まで多くの患者が訪れるため、各科のプライマリ・ケアの習得には適した環境である。宮古島地域の限られた医療資源を最大限に活用するには、開業医、診療所病院、介護施設、老人ホーム、保健所等の医療施設がお互いに連携し、地域の患者に医療サービス供給することが重要であり、地域の患者に信頼される病院、医療従事者に選ばれる病院を目指す。															
身分異動時の 研修医の処遇	身分：新地方公務員法第22条の2第1項に定める一般職の地方公務員（会計年度任用職員） 月額：1年次 290,800円（204,800円+86,000円） 2年次 298,700円（212,700円+86,000円） 手当：時間外勤務手当、期末手当、通勤手当（片道2km以上）、 休日勤務手当、退職手当 社会保険：採用1年目（健康保険・厚生年金、労働者災害補償保険、雇用保険（6ヶ月）） 採用2年目（原則）（地方公務員共済組合、地方公務員災害補償基金） 有給休暇：採用1年目 年間10日 採用2年目 年間11日															
身分異動時の 当直の有無・詳細	有	6回/月（準夜勤17:00-24:00）														
研修医が利用できる 宿舎の有無	有	単身用8戸。世帯用2戸 宿舎利用料 無料（光熱費自己負担・Wi-fi料金2000円/月）														
その他																

浦添総合病院

住所	〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖四丁目16番1号 ※2023年12月より新病院開院予定			
ホームページ	https://jin-aikai.com/urasoe/			
常勤医師	88名	指導医数	48名	
研修実施責任者	藏下 要	指導医	藏下 要	他
年間外来診療日数	297日	一日平均患者数	①外来患者延べ数：370名 ②入院患者延べ数：270名	
病床数	334床			

基本的な勤務時間	平日	8：30-17：30（変形労働時間制）	土日	8：30-17：30（変形労働時間制）
休診日等	祝日	休診	慰霊の日	曜日通り
	旧盆	曜日通り	年末年始	12/30～1/3休診

	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
	科	科	急	酔	児	婦	神	形	神	泌	成	膚	鼻		射	理
			科	科	科	人	科	外	経	尿	外	科	咽	科	線	断
研修受入	○	○	○	○				○	○		○		○		△	○

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。

△：直近にならないと受入可否の回答ができない。

診療グループ

内科：病院総合、消化器、循環器、呼吸器、腎臓、糖尿病内分泌

外科：消化管、肝胆膵、呼吸器、乳腺、心臓血管

救急：ER、集中治療

放射線：画像診断

病院の特徴 基本方針	<p>プライマリ・ケア研修の中で、成人の急性期疾患のマネジメントに重きを置く。 実践×フィードバックの救急研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急ローテ3ヶ月+ER当直を通して、3次救急で学ぶ。救急車5,000台/年、ER受診2万人/年。 ・緊急手術や血管内治療など 24 時間対応。初期対応をほとんど全て研修医が行う。 ・救急医が24時間常駐し、常にフィードバックを受けられる。ドクターカーやヘリ研修も可能。 <p>主治医として活躍する内科研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院総合内科で、臓器を特定せずに患者を診る。 ・指示されて動く担当医ではなく、自ら考え調べ行動し、入院から退院まで管理する「主治医」として学ぶ。 ・後期研修医との屋根瓦体制の構築。症例は極めて豊富であり、肺炎、慢性期疾患、担癌患者、膠原病、ACPなども学べる。 <p>充実体制の専門科研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外科、脳神経外科、麻酔科は必修ローテ。 ・脳卒中の初期対応や気管挿管に自信がもてるようになる。
---------------	---

身分異動時の 研修医の処遇	<ul style="list-style-type: none"> ・給与：1年次 300,000 円/月(賞与なし) 2年次 341,000 円/月(賞与なし) ・手当：当直手当/時間外手当 ・休暇：年次有給休暇(1年次:12 日 / 2年次:20 日)、年末年始、慶弔休暇 ・研修医宿舎：病院提供または1ヶ月 50,000 円までの補助制度あり ・保険：健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、医師賠償責任(個人加入) ・健康診断：年2回 ・外部研修活動：病院負担で年1回の学会参加 / 発表者の場合は年5回まで病院負担 ・英語論文作成費用の補助 ・福利厚生：各種補助(リゾートホテル、スポーツクラブ等)
------------------	--

身分異動時の 当直の有無・詳細	有	約 4~8 回(上限8回) / 月 ※翌日午後は、原則フリー
--------------------	---	--------------------------------

研修医が利用できる 駐車場の有無	有	
---------------------	---	--

その他		
-----	--	--

中頭病院



住 所	沖縄県沖縄市字登川610番地		
ホームページ	http://www.nakagami.or.jp		
常 勤 医 師	67名(初期研修医除く)	指 導 医 数	38名
研修実施責任者	新里 敬	指 導 医	間山 泰晃 他
年間外来診療日数	295日	一日平均患者数	602名(外来) 336名(入院)
病 床 数	355床		

基本的な勤務時間	平日	平日：8:30～17:30	土日	土：8:30～12:30 日：休み
休診日等	祝日	休診	慰霊の日	曜日通り
	旧盆	曜日通り	年末年始	12/31～1/3休診

	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
	科	科	急	酔	児	婦	神	形	神	泌	成	膚	鼻	科	射	理
	科	科	科	科	科	人	科	外	経	尿	外	科	咽	科	線	断
研修受入	○	○	○	○	△			○	▲	▲	▲		▲	▲		○

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。
△：たすき掛け研修のみ ▲：要相談

診療グループ

内科：総合、消化器、呼吸器、循環器、感染症、血液、腎臓、集中治療(ICU)
外科：消化器・一般、呼吸器、末梢血管、乳腺、心臓血管

病院の特徴 基本方針

当院は1982年4月に開院し、沖縄県中部医療圏における急性期医療を担っております。
「高度急性期医療提供」では、手術室設備の充実・ICU/HCUの強化を図っております。
「集学的がん治療の構築」では、化学療法・手術・放射線治療により、より質の高い医療環境を整えおります。
「救急医療の充実」では、「断らない救急医療」を目指し取り組んでおります。
また、地域支援病院として、地域の医療機関との病病・病診連携を強め、様々な勉強会及びセミナーを定期的開催し、医療教育の場を提供しております。

身分異動時の 研修医の処遇

- 常勤医師
- 給与／月： 1年次：300,000円／月 2年次：340,000円／月
- 賞与／年：なし
- 勤務時間：08：30～17:30
- 休暇：年次有給休暇(1年次：10日・2年次：11日)夏季休暇、年末年始
- 研修医の舎宿 ・無(家賃補助月2万円)
- 社会保険・労働保険：公的医療保険(政府管掌健康保険)公的年金保険(厚生年金)
労働者災害補償保険法の適用：有、雇用保険：有
- 健康診断：年1回(夜勤従事者は年2回)
- 医師賠償責任保険の扱い：個人加入(強制)
- 外部の研修活動：学会等参加→可、参加費用支給の有無→有

身分異動時の 当直の有無・詳細

有 回数 約4～7回／月

研修医が利用できる 駐車場の有無

有

その他

※受入に関して：診療科をローテーションする研修医数によっては、受入不可の可能性有り

ハートライフ病院



住 所	〒901-2492沖縄県中頭郡中城村字伊集208番地		
ホームページ	https://www.heartlife.or.jp/		
常 勤 医 師	92名	指 導 医 数	47名
研修実施責任者	普天間 光彦	指 導 医	普天間 光彦 他
年間外来診療日数	295日	一日平均患者数	513.4名
病 床 数	308床		

基本的な勤務時間	平日	8:30~17:30	土日	土8:30~12:30 日 休
休診日等	祝日	休診	慰霊の日	曜日通り
	旧盆	曜日通り	年末年始	12/31~1/3休診

	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
	科	科	急	酔	児	婦	神	形	神	泌	成	膚	鼻	科	射	理
			科	科	科	人	科	外	経	尿	外	科	咽		線	断
研修受入	○	○	○	○	○	○		○	○	○			○	○	○	○

※病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。
 1年目：原則、7月以降で内科は2ヶ月以上、救急は3ヶ月以上のみ受け入れ可
 2年目：各診療科受け入れ可能（要調整）、血液内科は2ヶ月以上から受け入れ可
 共通：毎週土曜日午前出勤、診療科選択の理由

診療グループ
 内科：呼吸器、循環器、消化器、血液、総合内科

病院の特徴 基本方針	【病院の特徴】 24時間二次救急指定病院 地域医療支援病院 地域災害拠点病院 医師臨床研修指定病院（基幹型） 日本医療機能評価機構 一般病院2 認定第GB97-5号 DPC対象病院（標準病院群） 【基本方針】 ①安全で質の高いチーム医療を提供する ②地域完結型医療（地域保健・医療・福祉施設との連携）を実践する ③24時間体制の断らない救急医療を提供する ④患者が満足し、納得する医療を提供する ⑤社会に認められる人材を育成する ⑥健全な医療経営を実践する ⑦社会の変化に対応できる組織作りをする
---------------	--

身分異動時の 研修医の処遇	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤医師としての採用 ・勤務時間：基本的な勤務時間 平日8:30~17:30、土8:30~12:30（時間外勤務あり） ・給与：1年次 313,335円/月 2年次 353,340円/月 ・手当：当直手当、通勤手当、住宅手当 ・休暇：研修期間3ヶ月以上/2日付与、6ヶ月以上/5日付与 ・加入保険等：社会保険、健康保険、年金保険、労災保険、雇用保険の適用あり。 ・医師賠償責任保険：施設限定医師賠償責任保険の適応はあるが、適応範囲が限られているため個人での加入が必要である。 ・健康管理：年2回健康診断有
------------------	--

身分異動時の 当直の有無・詳細	有	(6~7回/月)
--------------------	---	----------

研修医が利用できる 駐車場の有無	有
---------------------	---

その他	
-----	--

友愛医療センター



住 所	沖縄県豊見城市字与根50番地5		
ホームページ	https://residents.yuuai.or.jp/		
常 勤 医 師	157名	指 導 医 数	60名(2023.9.5現在)
研修実施責任者	嘉数 真教	指 導 医	新崎 修 他
年間外来診療日数	292日	一日平均患者数	682名
病 床 数	388床		

基本的な勤務時間	平日	8:30-17:30	土日	8:30-12:30(土のみ)
休診日等	祝日	休診	慰霊の日	曜日通り
	旧盆	曜日通り	年末年始	休診(12/30-1/3)

	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
	科	科	急	酔	児	婦	神	形	神	尿	成	膚	鼻	科	射	理
	科	科	科	科	科	人	科	外	経	器	外	科	咽	科	線	断
研修 受入	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○			○

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。

診療グループ

内科：呼吸器、循環器、消化器、糖尿病・内分泌、腎臓、リウマチ・膠原病
 外科：消化器管、肝胆膵、肺、乳腺、外科救急
 産婦人科：産科、婦人科、不妊内分泌、更年期
 整形：上肢(肩・肘・手)、股、膝、足、脊椎

病院の特徴 基本方針

バイタルサインや身体診察を重視する「群星沖縄(むりぶしおきなわ)プログラム」と大学の高度医療が経験できる「RyuMICプログラム(琉球大学病院の研修プログラム)」を統合したプログラムを有しており、全国より12名の研修医を受け入れます。
 当院の特徴として、各診療科がひとつの医局に集合しているため困った症例等、専門の医師へ気軽に質問ができます。また、勉強会の充実も魅力のひとつに挙げられ、研修医セミナーやシミュレーション勉強会、徳田安春先生総合内科教育回診、寺澤秀一先生ER教育回診、群星沖縄主催の米国式教育回診などを通してグローバルに臨床の真髄を学ぶ事ができます。

身分異動時の 研修医の処遇

平日：8:30-17:30
 土曜：8:30-12:30
 当院ホームページをご参照ください

身分異動時の 当直の有無・詳細

有 診療科問わず当直有

研修医が利用できる 駐車場の有無

有

その他

初期研修医が学ぶには十分な数の症例を経験することができます。教育熱心な指導医、先輩、コメディカルが多く、様々な視点から勉強でき、チーム医療を学ぶことができます。

大浜第一病院



住 所	沖縄県那覇市天久1000番地		
ホームページ	https://www.omoto-recruit.jp/jobs/trainee/		
常 勤 医 師	67名	指 導 医 数	14名
研修実施責任者	岡田 祥一	指 導 医	前田 武俊 他
年間外来診療日数	295日	一日平均患者数	384.2名
病 床 数	217床		

基本的な勤務時間	平日	8：30～17：30	土日	土 8：30-12：30 日 休診
休診日等	祝日	休診	慰霊の日	曜日通り
	旧盆	休診	年末年始	12/31, 1/2～3休診

	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
	科	科	急	酔	児	婦	神	形	神	泌	成	膚	鼻		射	理
研修 受入	○	○		○				○	○					○	○	

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。

診療グループ

内科：心臓血管センター、循環器内科、内視鏡センター、呼吸器内科、
脳神経内科、糖尿病センター、腎臓内科（透析センター）、消化器内科
外科：外科、心臓血管外科、大腸・肛門外科、眼形成眼窩外科、女性腹腔鏡センター

病院の特徴 基本方針

病院の特徴

当院は沖縄の研修病院の中でも比較的小柄な施設になりますが、北米型救急を実践する救急診療科を筆頭に、専門研修が行える循環器内科、消化器内科、糖尿病センター、整形外科、消化器一般外科などで豊富な研修が行えます。また、内科外科を問わず研修医に積極的な手技を行わせる環境があり、研修医一人あたりの経験症例数も多いため充実した研修が行えます。

研修理念

1. 初期・専門医とともに現場で実践的に働ける若手医師を育てます。
2. 医師個人としてスキルはもとより、チームを率いる医師に必要な人間力を育てます。
3. 基本となる知識と考え方を身につけつつ、症例経験を通して臨床力を高めていく体制を構築しています。

身分異動時の 研修医の処遇

- ・常勤 ・賞与なし・時間外手当：有り ・休日手当：有り
- ・研修手当：（1年次）300,000円税込 （2年次）340,000円（税込）
- ・勤務時間：（月～金）8：30～17：30（土）8：30～12：30日、祝祭日は救急研修（当直）以外はお休み※年間を通じて週40時間勤務。必要に応じて上記時間以外でも研修時間とする。（例）当直、緊急手術、カンファレンス等
- ・有給休暇：（1年次）10日（2年次）12日・特別休暇：夏季休暇3日、病休休暇5日
- ・年末年始4日、旧盆1日、産前産後・育児休業有り
- ・各種保険：健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、病院厚生年金基金
- ・医師賠償責任保険（病院において加入）

身分異動時の 当直の有無・詳細

有 当直約月7回

研修医が利用できる 駐車場の有無

有

その他

- ・外部研修活動学会研修会等への参加可能（年2回まで費用病院負担）
※発表は年2回に含めない
- ・福利厚生互助会有り、昼食補助有り、病気入院、外来治療費は減免有り
- ・研修医の宿舎無し（但し家賃補助有り 50,000上限）

中部徳洲会病院



住 所	〒901-2393 沖縄県中頭郡北中城村字比嘉 8 0 1 番地		
ホ ー ム ペ ー ジ	http://www.cyutoku.or.jp/		
常 勤 医 師	105名	指 導 医 数	33名
研修実施責任者	轟 純平	指 導 医	比嘉 信喜 他
年間外来診療日数	271日	一日平均患者数	646名
病 床 数	398床		

基本的な勤務時間	平日	平日 8:30~17:00	土日	土日 休
休診日等	祝日	休診	慰霊の日	曜日通り
	旧盆	曜日通り	年末年始	12/31-1/3

	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
	科	科	急	酔	児	婦	神	形	神	泌	成	膚	鼻	科	射	理
研修 受入	○	○	○	○	○			○	○	○					○	

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。

診療グループ

内 科：内科、脳神経、消化管、血液、循環器
 外 科：上部消化管、下部消化管、肝胆膵、乳腺、心臓血管、ステント、末梢血管、呼吸器
 麻 酔：麻酔、ICU
 小 児：総合
 放射線：診断

病院の特徴 基本方針

〈理念〉
 「生命を安心して預けられる病院」、「健康と生活を守る病院」の理念のもとに「いつでも、どこでも、誰でもが安心して最善の医療を受けられる社会」を目指している。これを実践する為、エマージェンシーケアとプライマリーケアをしっかりと身につけ、小児から老人まで男女を問わずどんな状態の患者様でも的確に診察でき、予防医療、離島僻地医療、災害医療等幅広い医療活動を通じて、患者様中心に動き、患者様の痛み、苦しみ、悲しみを理解できる医師の養成を目指す。

〈基本方針〉

1. 者様の権利を理解し、安全を心がける
2. 医療スタッフと連携し、チーム医療を実践する
3. 基本的な診療能力を身につけ、様々な環境において適切な検査・治療を計画できる
4. 基本的な検査・治療手技を身につける
5. 医師として必要なプレゼンテーション能力を身につける
6. 生涯にわたって自己研鑽するための学習習慣を身につける

身分異動時の 研修医の処遇

・就業場所：当院設内 ・勤務時間：8:30-17:00（時間外勤務あり）
 ・休憩時間：原則12時30分~13時30分 ・休日：月9日（シフト制／年間110日）

身分異動時の 当直の有無・詳細

有
 2年次：当直時間：17時~7時 ・当直代：3万円
 1年次：当直時間：17時~7時 ・当直代：2万5千円

研修医が利用できる 駐車場の有無

有

その他

南部徳洲会病院

住 所	沖縄県島尻郡八重瀬町字外間171番地1			
ホームページ	https://www.nantoku.org/			
常 勤 医 師	78名	指 導 医 数	27名	
研修実施責任者	今村 恵	指 導 医	服部 真己	他
年間外来診療日数	365日	一日平均患者数	630.7名	
病 床 数	345床			

基本的な勤務時間	平日	8：30～17：00	土日	土8：30～12：30 日 休
休診日等	祝日	当直体制 (研修は休み)	慰霊の日	通常診療 (土日の場合は当直体制、研修は休み)
	旧盆	通常診療 (土日の場合は当直体制、研修は休み)	年末年始	12/29午後～1/3当直体制 (研修は休み)

	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
	科	科	急	酔	児	婦	神	形	神	泌	成	膚	鼻	科	射	理
研修 受入	○	○	○			○		○		○					○	

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。

診療グループ
 救急：救急
 内 科：呼吸器、総合
 外 科：消化器、心臓血管、呼吸器
 整 形：脊椎、腫瘍、手、肩、足、人工関節、リウマチ・スポーツ
 放射線：診断、治療

病院の特徴
 基本方針

南部徳洲会病院は昭和 54 年開設依頼「生命だけは平等だ」の理念のもとに、「いつでも、どこでも、だれでもが最善の医療を受けられる社会」目指し、日々、救急医療や僻地離島医療を柱に高度先進医療、介護福祉、予防医療に幅広取り組んでいます。

救急医療の分野では、沖縄県の民間病院第1号の救急指定病院に指定され「絶対に救急を断らない病院」を合言葉に職員一丸となって取り組んでいます。離島救急についても昭和 60 年から洋上救急協力や自衛隊機離島救急搬送協力を始めており、当院屋上に設置したヘリポートは、沖縄県内で初導入した実績があり、約50件/年でこれにより、ヘリで搬送された患者様を、より迅速に救急室や集中治療室へ移動し治療することが可能になりました。

昭和54年の開設当初から研修医を受け入れ、「救急を断らない、何でも診ることのできる医者」をモットーに、実践方式で実力を身につける密度の濃い研修教育を行っています。

身分異動時の
 研修医の処遇

勤務時間：8：30～17：00
 有給休暇：1年次10日、2年次11日

1年次基本手当：300,000円/月 賞与：400,000円/年 当直：25,000円/回
 2年次基本手当：320,000円/月 賞与：640,000円/年 当直：30,000円/回
 時間外手当有
 住宅手当（家賃半額支給24,000～最大50,000まで）、
 通勤手当：4,100円～24,500円（距離に応じて支給）

身分異動時の
 当直の有無・詳細

有 0～6回/月
 希望等相談

研修医が利用できる
 駐車場の有無

有

その他

- ・身分 正職員
- ・組合健康保険、厚生年金、雇用保険
- ・健康診断年2回
- ・医師賠償保険病院にて加入
- ・学会・研究会への参加補助あり

旭川医科大学病院

住 所	北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号			
ホームページ	https://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/			
常 勤 医 師	210名	指 導 医 数	91名	
研修実施責任者	牧野 雄一	指 導 医	牧野 雄一 他	
年間外来診療日数	243日	一日平均患者数	1467名	
病 床 数	602床			

基本的な勤務時間	平日	8：30～17：15	土日	休み
休診日等	祝日	休診	慰霊の日	
	旧盆		年末年始	12/29～1/3休診

	内科	外科	救急科	麻酔科	小児科	産婦人科	精神科	脳神経外科	整形外科	腎泌尿器外科	形成外科	皮膚科	耳鼻咽喉科	眼科	放射線科	病理診断科
研修受入	○															

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。

診療グループ
内科：循環器内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓内科

病院の特徴
基本方針

【病院の特徴・基本理念】
大学病院としての使命を認識し、病める人の人権や生命の尊厳を重視した先進医療を行うとともに、次代を担い、地域医療に寄与し、及び国際的にも活躍できる医療人を育成する。

【目標】
①人権や尊厳を思い遣る患者中心の医療を行う。
②安心・安全を心がける中で、高度な医療を提供する。
③予防・健康医学に取り組み、地域医療や福祉の向上に貢献する。
④倫理観にあふれ国際感覚に富んだ医療人を育成する。
⑤未来の医療を創造し、その成果を国内外に発信する。

身分異動時の研修医の処遇

6ヶ月以上の研修で身分異動
身 分：研修医(非常勤職員)
手 当：給与単価 9,075円/日 宿日直手当 16,000円/回
ほか 特殊勤務手当、通勤手当、寒冷地手当 等
勤務時間：8:30～17:15(休憩時間：12:00～13:00)
社会保険等：健康保険(国家公務員共済組合)、厚生年金保険、労働者災害補償保険法の適用あり、雇用保険あり

身分異動時の当直の有無・詳細

有 宿日直有(月2～4回) ※但し研修期間による

研修医が利用できる宿舎の有無

無

その他

当院では臓器別診療科毎に研修を展開しており、本プログラムでは主に循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、腎臓内科分野における研修を受け入れる。循環器内科、脳神経内科、腎臓内科の担当である第一内科では生命に直結する幅広い領域をカバーしており、各指導医の指導の下「総合力のある専門内科医」そして「専門性を持った総合内科医」を育成できる教室であることを誇りにしている。内科医として必要な知識と技術の習得はもちろん、一刻を争う臨床現場での確かな判断を下す能力を養うことも大切と考えている。一方、将来それぞれ専門内科医となるべき、訓練も初期研修のうちから始めている。

経験すべき病態・疾患として循環器内科では緊急を要する急性冠動脈疾患・ショック・急性心不全のほか、高血圧・不整脈・心筋疾患・弁膜症などが挙げられる。救急対応に必要な手技のほか心臓カテーテル検査技術の習得を目指す。

呼吸器内科は、肺癌・喘息・COPD・呼吸不全や肺炎・間質性肺炎などの診断から検査・治療法を習得する。また、気管支鏡検査の技術も習得する。

脳神経内科では脳血管障害・脳炎・意識障害などの急性期疾患に的確に対応できる能力を養う。同時に、パーキンソン病などの慢性神経疾患や多発性硬化症・末梢神経疾患・重症筋無力症・筋疾患などを系統的に診断し治療できる能力をつけることを目標とする。手技としては髄液検査・筋生検などの習得のほか、CT・MRI・SPECT・PETなどの画像診断や脳波・筋電図などの神経生理学的検査の解析力を養う。

腎臓内科は、糸球体腎炎やネフローゼ症候群・腎不全のみならず、水・電解質代謝、高血圧(本態性・二次性)など様々な疾患に対する幅広い知識が求められるため、より深い病歴の聴取や身体所見の把握、尿所見のみかた、腎機能検査、水電解質、酸塩基平衡、動脈血ガス分析、画像診断など、診断へのアプローチのしかた、病態生理の正確な把握法を修得する。さらには腎生検(病理診断を含む)や透析導入など専門的技術の習得を図る。

がん研究会 有明病院



住所	〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31		
ホームページ	https://www.jfcr.or.jp/hospital/index.html		
常勤医師	388名	指導医数	23名
研修実施責任者	高野 利実	指導医	向井 俊貴 他
年間外来診療日数	243日	一日平均患者数	1,785名
病床数	686床		

基本的な勤務時間	平日	8:50~17:25	土日	休
休診日等	祝日	休診 曜日通り	慰霊の日	
	旧盆		年末年始	12/29~1/3休診

	内 科	外 科	救 急 科	麻 酔 科	小 児 科	産 婦 人 科	精 神 科	整 形 外 科	脳 神 経 外 科	腎 泌 尿 器 外 科	形 成 外 科	皮 膚 科	耳 鼻 咽 喉 科	眼 科	放 射 線 科	病 理 診 断 科
研修受入	○	○	○	○				○		○	○				○	

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。
救急科の受け入れは可能ですが、症例数は少ない。

診療グループ

内科：消化器、呼吸器、乳腺、総合腫瘍科、血液腫瘍科
外科：消化器、呼吸器、乳腺、形成

病院の特徴 基本方針

【病院の特徴】－理念：がん克服をもって人類の福祉に貢献する－
当院は、昭和9年、日本初のがん専門病院として 29 床で発足し、平成 17 年に豊島区上池袋から江東区有明に移転し、現在、686 床の充実した内容を誇る近代的病院である。開院当初より常にかんがいの診断と治療の最高の技術を提供し続けると共に、他方では最も先進的ながんの臨床研究を推進してきた。平成 23 年 10 月には、これまでの医療実績と高度医療などへの取り組みが評価され、厚生労働大臣から民間では初の特設機能病院の指定を受けている。
各科それぞれが責任をもって診断・治療を行っているが、病院全体としては、患者さん1人1人のために、病院の最高の機能が発揮されるように、また患者さんが専門家を渡り歩くのではなく、患者さんを中心に各専門職が集合するシステム（チーム医療）になっている。
がん研有明病院の特徴として、がん研究所、がん化学療法センター、がんプレジジョン医療研究センターとの密接な交流があり、先進的な診断学の開発や医療の実践を行っている。また、電話によるがん相談や医師・看護師による市民公開講座など、様々な患者さんのための支援活動も活発に行われている。

身分異動時の 研修医の処遇

基本給：302,000円
賞与：なし
手当：要件に応じて、時間外手当・住宅手当・家族手当等を支給

身分異動時の 当直の有無・詳細

有 (勤務初月のみ無し)

研修医が利用できる 宿舎の有無

無 無し

その他

【初期臨床研修について】
当院は、国際的にレベルの高いがん研究所、がん化学療法センター、がんプレジジョン医療研究センターと共に先進医療を実践する病院であり、がん専門病院ではあるが、初期臨床研修に対応した各科それぞれ基本のプログラム及び指導体制があり、研修医一レジデント一医員一スタッフの一貫した教育システムのもと、臨床の基本から高度医療へと段階的に進むことが可能である。

糸満晴明病院



住 所	沖縄県糸満市字大度520番地		
ホームページ	https://www.seimei.org/		
常 勤 医 師	10名	指 導 医 数	4名
研修実施責任者	平田 雄三	指 導 医	高橋 正明 他
年間外来診療日数	243日	一日平均患者数	101名
病 床 数	297床 (内43床 休床)		

基本的な勤務時間	平日	8:15~17:15	土日	休
休診日等	祝日	休診	慰霊の日	曜日通り
	旧盆	ウークイのみ休診	年末年始	12/29~1/3休診

	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
	科	科	急	酔	児	婦	神	形	神	泌	成	膚	鼻	科	射	理
研修 受入							○									

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。

診療グループ
(精神科のみの研修)

病院の特徴 基本方針	<p>【特 徴】 当院は昭和49年に東シナ海を望む風光明媚な糸満の地に開設され、沖縄県初の医療法人として、地域の皆様の健康づくりを支援してまいりました。 200床でスタートし、昭和63年にはアルコール依存症専門治療病棟を開始し、約30年にわたり飲酒問題に悩む患者様の治療実績を培い、平成30年には沖縄県の依存症専門医療機関に選定されています。 平成20年からは民間病院としては、いち早く、小児・児童専門の外来診療を取り入れております。 平成22年には認知症治療病棟を開設し、認知症ケア技法として、ユマニチュードを取り入れるなどより良いケアの実践に取り組んでおります。</p> <p>【基本方針】 ・明るく清潔な環境で温もりのある精神医療を行います。 ・療養者の人権を尊重し、献身的な精神医療を目指します。 ・地域と連携を密にし、信頼され、貢献する精神医療を目指します。 ・医療従事者としてのプロ意識に徹し、日々の研鑽に励みます。 ・健全な経営による病院運営を行います。</p>
---------------	---

身分異動時の 研修医の処遇	当院の給与規定に基づいて決定しています。 詳細は、直接お問い合わせください。
------------------	---

身分異動時の 当直の有無・詳細	有	宿直 1回/週 程度、日直 1回/月 程度
--------------------	---	-----------------------

研修医が利用できる 駐車場の有無	有
---------------------	---

その他	<p>■診療科目 精神科・心療内科・歯科 ■診療時間 午前9時～午後5時 ■病床数 精神科急性期治療病棟(49床)・認知症治療病棟(51床)・精神科療養病棟(154床)休床43床 ■基準等 精神科急性期治療病棟入院料1(1病棟)・認知症治療病棟入院料1(1病棟) ・精神科療養病棟入院料(3病棟)・精神科作業療法 ・精神科デイナイトケア・精神科ショートケア(大規模) 他 ■関連施設 指定障害福祉サービス事業所 晴風苑 相談支援事業所 せいめい ■沖縄県 依存症専門医療機関選定 対象：アルコール依存症 (H30.11)</p>
-----	--

国立病院機構 沖縄病院



住 所	沖縄県宜野湾市我如古3丁目20番14号		
ホームページ	https://okinawa.hosp.go.jp/		
常 勤 医 師	30名	指 導 医 数	9名
研修実施責任者	大湾 勤子	指 導 医	仲本 敦 他
年間外来診療日数	約240日	一日平均患者数	114.7名
病 床 数	300床		

基本的な勤務時間	平日	基幹病院と同じ	土日	同左
休診日等	祝日	休診	慰霊の日	曜日通り
	旧盆	曜日どおり（祝日なら休診）	年末年始	12/29日～1/3日は休診

	内	外	救	麻	小	産	精	脳	整	腎	形	皮	耳	眼	放	病
	科	科	急	酔	児	婦	神	神	形	泌	成	膚	鼻	科	射	理
研修 受入	○	○														○

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。

診療グループ
内科：呼吸器内科、脳神経内科、緩和医療科
外科：呼吸器外科

**病院の特徴
基本方針**

当院は診療の3本柱として「呼吸器疾患」、「神経・筋疾患」それに「肺癌を中心とした癌診療と緩和ケア」の専門的医療を行い、これらの分野において沖縄県の中心的役割を担っております。呼吸器内科は、肺炎、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、結核等多岐にわたり、検査部門では気管支内視鏡検査を年間約320例行っております。呼吸器外科は手術件数が年間約180件で、特に肺癌は年間100例を超えます。神経筋疾患は本県の神経難病センター的役割を果たしており、年間の入院実数は650例を数え、多くの画像診断、神経生理検査、病理診断、さらに鹿児島大学との共同研究で遺伝子診断などを活発に行っております。他の診療科は消化器内科、消化器外科、放射線科があり、それぞれに学会専門医が活発に診療を行っております。

【プログラムの特徴】
管理型病院に掲げる目標に準ずると共に、呼吸器内科・外科、脳神経内科の基本的診療について習熟する。呼吸器内科は、主として日常臨床で遭遇する頻度の高い呼吸器疾患に適切に対応できる基本的な診療能力（理学所見、画像診断等）を習得する。呼吸器外科は、呼吸器外科疾患の基礎知識、診断・治療、基本的な手技を学ぶ。脳神経内科は、神経学の基礎知識、診察手技、神経画像診断、神経生理検査の基礎、神経病理の基礎を習得する。その他、当院は肺癌や神経難病も多く、緩和・終末期医療の機会も多いことから、告知・緩和ケア・臨終時等における全人的対応の実践を通じて、医師としての人格形成についても寄与したい。

身分異動時の
研修医の処遇

1～2ヶ月の研修のみ可能

身分異動時の
当直の有無・詳細

無

研修医が利用できる
駐車場の有無

有

その他

沖縄県立精和病院



住 所	〒901-1105 沖縄県南風原町字新川260		
ホームページ	http://www.hosp.pref.okinawa.jp/seiwa		
常 勤 医 師	9名	指 導 医 数	6名
研修実施責任者	山川 宗一郎	指 導 医	屋良 一夫 他
年間外来診療日数	242日	一日平均患者数	105.4
病 床 数	精神246床、結核4床		

基本的な勤務時間	平日	8:30~17:00	土日	休
休診日等	祝日	休診	慰霊の日	休診
	旧盆	通常どおり	年末年始	12/29~1/3休診

	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
	科	科	急	酔	児	婦	神	形	神	尿	成	膚	鼻	科	射	理
研修 受入							○									

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。

診療グループ
(精神科のみの研修)

病院の特徴 基本方針	<p>・管理者他 病院長：屋良一夫 副院長：飯田淳史 看護部長：嘉陽晴美 事務部長：翁長道代</p> <p>・県立病院唯一の精神科単科病院として中核的機能を有し、他の医療機関と連携し、離島を含め精神科医師の不足する地域の県立病院等への医師派遣や離島地域で保健所が行う精神科巡回診療に協力する等、県内の精神科医療の確保に努めている。</p> <p>・措置入院患者、触法行為のあった処遇困難な患者及び結核等身体合併症を持った患者の受け入れに努めている。</p> <p>・応急入院指定病院及び沖縄県精神科救急医療システムに則った病院として、精神科救急患者への対応に努めている。</p>
---------------	---

身分異動時の 研修医の処遇	<p>・身分：会計年度任用初期研修医師</p> <p>・給与：沖縄県会計年度任用職員の職の設置、給与、勤務条件等に関する規程に準ずる。</p> <p>・勤務日数：1週間あたり38時間45分（フルタイム） 5日/週</p> <p>・有給休暇：6か月経過後の年次有給休暇日数10日</p> <p>・社会保険：健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険、</p> <p>*沖縄県会計年度任用職員の職の設置、給与、勤務条件等に関する規程の準ずる。</p>
------------------	--

身分異動時の 当直の有無・詳細	無
--------------------	---

研修医が利用できる 駐車場の有無	有
---------------------	---

その他	<p>初期研修において当院での研修は1ヶ月という短い期間であるため、精神科の診断と治療における基本を習得してもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来、病棟実習を基本とし、指導医と診療にあたる。 ・作業療法活動、デイケアプログラムに参加、訪問看護を外来・訪問看護チームと一緒に、チーム医療を学ぶ。 ・機会がある時に鑑定の助手を行う。 ・外来実習は新患を優先的に診る。 ・各種の研修、講演会に参加する。
-----	---

与那原中央病院



住 所	与那原町字与那原2905		
ホームページ	https://www.ycb.or.jp		
常 勤 医 師	18名	指 導 医 数	2名
研修実施責任者	山里 将浩	指 導 医	山里 将一朗 他
年間外来診療日数	295日	一日平均患者数	291名
病 床 数	170床		

基本的な勤務時間	平日	月・火・水・金 08:30~17:30 木 08:30~12:30	土日	土 08:30~12:30、日 休
休診日等	祝日	内科：救急診療、外科・整形外科：救急診療〔当番制〕、臨床研修は休み	慰霊の日	通常診療 臨床研修は曜日通り
	旧盆	通常診療 臨床研修は曜日通り	年末年始	内科：救急診療、外科・整形外科：救急診療〔当番制〕 臨床研修は12/31~1/3休み

	内	外	救	麻	小	産	精	整	脳	腎	形	皮	耳	眼	放	病
	科	科	急	酔	児	婦	神	形	神	泌	成	膚	鼻	科	射	理
			科	科	科	人	科	外	経	尿	外	科	咽		線	断
研修受入	○	○		▲				▲		▲		▲		▲		

≫病院の都合により、研修受入れが難しい場合があります。

▲：体制が整い次第

診療グループ

内科：腎臓、循環器

外科：上部消化管、下部消化管、心臓血管、末梢血管

病院の特徴 基本方針

当院は昭和60年に与那原町内で診療を開始し、現在は内科（一般内科・消化器科・循環器科・呼吸器科・腎臓内科、内分泌科など）・外科・整形外科・眼科・皮膚科・歯科・歯科口腔外科、泌尿器科、人工透析等の診療科を標榜し、各診療科との連携を図りながらチーム医療を重点とした医療に取り組んでいます。

当院は入院施設170床（一般病床96、療養病床30、回復期リハビリ病床44）を有し、地域医療に重点を置き、福祉施設との提携も取りながら『急性期疾患から在宅医療まで』を基本方針に掲げるケアミックス型の医療施設です。直近の実績は新規入院患者数1,664名（月平均139名）述べ入院患者数52,336名、平均在院日数34日、手術767件（外科116 肛門科179 整形372 眼科95 他5）、外来患者数85,598名（月平均7,133名）救急受入965名（救急車による受入れ183件）となっています。（2021年度実績）当院は、かかり付け医的機能も大切にしながら、内科・外科・整形外科領域においては専門特化を目指し循環器科の心臓カテーテル検査、呼吸器科の睡眠時無呼吸検査、禁煙外来、消化器科の超音波内視鏡、琉大病院等との連携も積極的に取り組んでいます。又、外科部門では胃癌、大腸直腸癌、胆道系疾患など消化器系の手術をはじめ、透析シャント、下肢静脈瘤、胸部交感神経遮断術など幅広いジャンルで行っており、また、適応を吟味した上で鏡視下手術も進めていますので、多くの外科的知識・手技などを学ぶことができます。

当院は、常に生涯教育の実践と医療の質的向上を図り、地域の皆様及び医療機関、福祉施設と連携し、「患者さんの立場に立った安全でかつ満足していただける」医療の提供を目指しています。

- 一：奉仕の精神で、患者さんの立場に立った医療を行います。
- 二：患者さんの権利を尊重し、最善の医療を提供します。
- 三：チーム医療とグループ診療で、安全で安心な医療を心がけます。
- 四：生涯教育を実践して、常に医療の質の向上に心がけます。
- 五：職員が働きがいのある職場を目指します。

身分異動時の 研修医の処遇

身分異動を伴う研修の場合、お問い合わせください。

身分異動時の 当直の有無・詳細

有

研修医が利用できる 駐車場の有無 その他

有

第6章

地域医療 保健・医療行政 研修

共通研修カリキュラム

地域医療研修

- 必修科
- 病院で定めた必修科
- 選択科

地域医療担当スタッフ	武村 克哉（救急部）
研修指導責任者	各協力施設における実施責任者
	<p>1) 診療所では、診療所医師（指導医）が研修期間中の指導にあたる。</p> <p>2) 研修開始時に研修医と指導医が共に研修のゴールを確認し、研修医の学びたいこと、指導者が研修医に期待することを明確にしておく。</p> <p>3) 診療所研修以外の研修では、各施設のプログラムに従い教育担当者が指導する。</p>
研修方法	<p>4週間の地域医療研修を行う。期間中に一般外来研修や在宅医療研修を行う。</p> <p>1) 一般的な疾患を有し、さまざまな背景をもつ患者を診察する。</p> <p>2) 診療に貢献するような役割を果たす。 例. 医療面接・身体診察とその記録、検査・治療計画の立案、訪問診療、診療情報提供書の作成など</p> <p>3) 毎日の外来診療の終わりに診察内容について振り返り、指導医からフィードバックを得る。</p> <p>4) 研修の中間地点で、それまでの研修について指導医と共に振り返り、後半の研修をどのように行うか話し合う。</p> <p>5) 研修終了時に、評価票により指導医から正式なフィードバックを受ける。また、プログラムに対するフィードバックを行う。</p> <p>6) 研修終了後、礼状・研修の記録・ポストアンケートを総合臨床研修・教育センターに提出する。</p>
研修先	<p>へき地・離島または200床未満の施設 ※一覧は次ページ、詳細は「地域医療 保健・医療行政 研修施設 リファレンスガイド」を参照</p> <p>研修医は、研修希望施設を希望順に4施設挙げ、希望理由を総合臨床研修・教育センターに提出する。それを基に、地域医療研修先を決定する。</p>
参考資料	<p>プライマリ・ケア、家庭医療の診療所実習・研修の手引きPCFMネット編 http://www.shonan.ne.jp/~uchiyama/tebki.html</p>

保健・医療行政研修

- 必修科
- 病院で定めた必修科
- 選択科

選択科研修期間において、「地域医療研修」を担当している協力施設に加え、保健所や療養所においても研修医の希望により研修することが可能である。

※施設の受入れ条件等の都合上、研修医の希望に沿えない可能性もあります。

地域医療/保健・医療行政研修 協力病院・協力施設

[地域医療研修]

- ・愛聖クリニック
- ・曙クリニック
- ・アドベンチストメディカルセンター
- ・伊江村立診療所
- ・稲福内科医院
- ・沖縄県立北部病院附属伊是名診療所
- ・沖縄県立北部病院附属伊平屋診療所
- ・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属阿嘉診療所
- ・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属粟国診療所
- ・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属久高診療所
- ・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属北大東診療所
- ・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属南大東診療所
- ・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属渡名喜診療所
- ・沖縄県立宮古病院
- ・沖縄県立八重山病院
- ・沖縄県立八重山病院附属西表西部診療所
- ・沖縄県立八重山病院附属大原診療所
- ・沖縄県立八重山病院附属小浜診療所
- ・沖縄県立八重山病院附属波照間診療所
- ・沖縄南部療育医療センター
- ・沖永良部徳洲会病院
- ・恩納クリニック
- ・かりまた内科医院
- ・公立久米島病院
- ・首里城下町クリニック
- ・すながわ内科クリニック
- ・ちばなクリニック
- ・名嘉村クリニック
- ・ファミリークリニックきたなかぐすく
- ・もとぶ野毛病院
- ・与那国町診療所

[保健・医療行政研修]

- ・オリブ山病院
- ・北中城若松病院
- ・国立療養所沖縄愛楽園
- ・ちゅうざん病院
- ・宮里病院
- ・沖縄県北部保健所
- ・沖縄県中部保健所
- ・沖縄県南部保健所

※詳細は、令和6年度地域医療 保健・医療行政 研修施設リファレンスガイドを参照してください。
(令和6年9月頃配布予定)

共通研修カリキュラム

共通研修カリキュラムでは断片的になりがちな項目を総合的に学習することを目的に、定期開催のレクチャー、プライマリスキル、ケースカンファレンスを行います。共通研修カンファレンスへの参加は必須で、各診療科には研修医がカリキュラムに参加できるよう配慮することが求められています。

※研修医にとってよりよいレクチャーとなるように、要望等に応じて内容を適宜変更しています。

※月に2～3度、研修医によるケースカンファレンスを取り入れています。

<参考>令和5年度実施から抜粋（予定含む）

※ケースカンファレンスは令和4年度実施分

レクチャー

	内容	担当診療科
1	コンサルテーション・プレゼンテーション	臨床研修センター
2	下血・血便・消化性潰瘍	第一内科
3	肺炎・抗菌薬の使い方	第一内科
4	気管支喘息・COPD	第一内科
5	胸痛	第三内科
6	心電図	第三内科
7	心不全	第三内科
8	脳血管障害	第三内科
9	腹痛	第一外科
10	小児救急	小児科
11	小児虐待	小児科
12	頭痛	脳神経外科
13	頭部の画像診断	放射線科
14	腹部CTのみかた	放射線科
15	呼吸困難	臨床研修センター
16	救急外来での発熱対応	臨床研修センター
17	動脈血液ガス分析	臨床研修センター
18	貧血・DIC	第二内科
19	腎不全	第三内科
20	大動脈解離	第二外科
21	妊婦に対する薬剤の使い方	産科婦人科
22	女性の腹痛	産科婦人科
23	興奮・せん妄・抑うつ	精神科神経科
24	日常診療で出会うアレルギー	皮膚科
25	耳鼻科救急	耳鼻咽喉科
26	視力障害・眼科救急	眼科
27	糖尿病	第二内科
28	高血圧	第三内科
29	死亡診断書および異状死体について	法医学講座

シミュレーションスキル

1	外傷の初期診療	救急科
2	ショック	救急科

プライマリスキル

	内容	担当診療科
1	シーネ固定・包帯法	整形外科
2	腹部エコー	第一内科
3	心エコー	第三内科
4	皮膚縫合	第二外科
5	排尿困難・フォーリー留置	腎泌尿器外科
6	結紮	第二外科
7	局所麻酔	麻酔科
8	腰椎穿刺	第三内科
9	排尿困難・フォーリー留置	腎泌尿器外科
10	局所麻酔・切開	麻酔科・第二外科

ケースカンファレンス（令和4年度実施）

1	ケースカンファレンス&スライド作成のコツ
2	79歳女性 7日前からの側胸部痛
3	84歳女性 血便
4	21歳女性 下腹部痛・嘔吐・下痢
5	65歳女性 歩行困難
6	53歳男性 前胸部痛
7	73歳男性 突然の背部痛+左片麻痺
8	78歳男性 84歳女性 意識障害
9	89歳女性 転倒後出血
10	90歳女性 呼吸困難/黄疸
11	42歳男性 上腹部痛
12	68歳男性 労作時呼吸困難
13	60歳男性 徐々に増悪する腹痛
14	80歳女性 頻回の嘔吐
15	87歳女性 転倒後、起立困難
16	40歳女性 嘔吐、下痢、血圧低下
17	67歳男性 全身倦怠感、食指不振
18	めまいを契機に発覚した中枢性めまいの一例
19	28歳男性 意識消失
20	67歳女性 心窩部痛

教育CPC

1	拘束型心筋症
2	ARC症候群

RyuMIC ログマークデザイン



「Ryu」の頭文字、「R」の中に「MIC」を配置した。
「R」の形は、人の和と鋭敏な感覚を象徴する。
緑は、沖縄の「若夏」の色彩で「RyuMIC」の豊かな発展を象徴する。

令和6年度 琉球大学病院 初期臨床研修プログラム

RyuMICプログラムA
RyuMICプログラムB

令和5年11月発行

琉球大学病院 総合臨床研修・教育センター
〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207番地
T E L : 098-895-1384、1385 F A X : 098-895-1099
H P : <https://sotsugo.skr.u-ryukyu.ac.jp/center/>
M a i l : kensyu@acs.u-ryukyu.ac.jp





Ryuky Medical Interactive Collaboration
(RyuMIC)